

吹田市立図書館基本構想

アクションプラン総括

令和4年（2022年）7月

吹田市立図書館

— 凡例 —

吹田市立図書館基本構想（以下「基本構想」という。）では、基本構想の進行管理と点検を行うため、図書館が実施する具体策や方法をまとめたアクションプラン（行動計画）を設定しました。アクションプランを総括することで、吹田市立図書館の10年間を検証します。

【評価の対象期間】

基本構想が規定する計画期間は、平成25年度（2013年度）から令和4年度（2022年度）の10年間ですが、本総括においては、対象期間を、平成25年度（2013年度）から令和3年度（2021年度）までの9年間とします。

*過去10年間の数値の経年変化を提示する場合は、基本構想策定時に参考数値とした平成22年度（2010年度）の翌年、平成23年度（2011年度）を起点とし、令和2年度（2020年度）までの10年間とします。

【数値目標の評価基準年度】

令和元年度（2019年度）、令和2年度（2020年度）については、コロナ禍の影響により、通常の統計数値と乖離していることから、また令和3年度（2021年度）については、統計数字が確定していないことから、数値目標の評価をする基準年度は、平成30年度（2018年度）としています。

【実施期間】

一部：計画開始時に一部実施中のもの 2-3年：計画開始から2~3年で実施 5年：計画開始から5年以内に実施 10年：計画開始から概ね10年以内に実施
※平成25年（2013年）3月時点の状況。

【目標指標解説】

「数値目標」：数値目標を達成したか

「経年比増」：前年度と比較しての増減

「成果物の発行」：リストの作成、印刷物の発行など、アウトプットした成果物の有無

【評価の基準】

- A 取組を実施し目標を達成した。または、目標を上回る成果があった。
- B 取組を実施し、目標には達していないが一定の成果をあげた。
- C 取組を実施したが、十分な成果をあげることができなかった。
- D 実施できていない。課題の整理、計画の見直しが必要である。

目次

1 地域の情報拠点として、資料・情報をいつでも、どこでも、誰にでも、提供する市民本位のサービス	4
(1) 図書館施設及びサービス網の整備	4
(2) 利用促進	6
(3) 資料と情報の提供	10
2 生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにします	15
(1) 施設や地域との連携	15
(2) 自己実現の援助	18
(3) 高齢者・障がい者サービスの充実	20
(4) 特色あるサービス	23
3 子育て支援や学校との連携を通して、子どもの健やかな成長に役立ちます	26
(1) 子ども読書活動支援センター機能*の充実	26
4 コロナ禍の吹田市立図書館（令和元年度～令和3年度）	30
別表 吹田市立図書館基本構想アクションプランの達成状況一覧	32
資料1 吹田市立図書館基本構想アクションプラン	37
資料2 10年間（平成23年度～令和2年度）の統計数値の推移とサービス指標	38
図書館語句解説	41

*がついている語句（初出）については、巻末「図書館語句解説」で説明しています。

1 地域の情報拠点として、資料・情報をいつでも、どこでも、誰にでも、提供する市民本位のサービス

(1) 図書館施設及びサービス網の整備

No.	事業名	具体策・方法	実施時期	目標達成の指標			
				項目	目標	結果	達成値
1	中央図書館の充実	中央図書館の再整備計画の策定を目指し、関係部局との調整を図る	10年	再整備計画の策定	実施	実施	A
2		新・中央図書館建設時に書庫機能の整備を図る	10年	再整備計画の策定	実施	未実施	B
3	利用不便地域の解消	岸部地域への施設整備を行い図書館サービス網の完成を図る	10年	再整備計画の策定	実施	実施	A
4		駐車場所の見直し並びに月2回巡回の実施と貸出方法を補充するシステムの検討	10年	巡回回数	経年比増	H29 190回 H30 195回	A
5	広域利用の促進	北摂地域全体の広域利用システムの検討や大阪市との広域利用	5年	各自治体との話し合いは進んだか	実施	実施	A

・中央図書館の充実 (表のNo.1・No.2)

昭和46年(1971年)11月に供用開始された中央図書館は、建物が老朽化していましたが、平成31年度(2019年度)から令和2年度(2020年度)にかけて耐震補強及び大規模修繕を実施し、施設のバリアフリー化や長寿命化が図られました。修繕にあたり、各フロアの用途整理を行ったため、以前の書庫スペースは縮小されましたが、集密書庫*を新たに導入し現蔵書数を収容することができました。しかし、積層書庫*については既に満杯になっており、大型書庫を有する千里山・佐井寺図書館でも収容上限が来ているため、市立図書館全体として、近い将来、収容能力の限界が来ると予想されます。そのための対策を、恒常的な除架計画*と、将来的な書庫機能の整備と併せて検討していく必要があります。

中央図書館の充実については、当面の目標は達成されたことで、No.1についての評価は「A」としましたが、書庫機能の整備に関しては将来の課題として残っているため、No.2については、評価は「B」としました。

・利用不便地域の解消 (表のNo.3・No.4)

図書館利用の不便な地域や図書館未整備地域へは自動車文庫が巡回して図書館サービスを行ってきましたが、平成29年(2017年)7月から北摂7市3町の図書館広域利用が開始されたこと、令和2年(2020年)11月の健都ライブラリー開館により市内の図書館網の整備が完了し、利用不便地域がほぼ解消されることから、令和3年(2021年)8月末で自動車文庫を廃止しました。廃止後の次期事業として、図書館網の整備が完了した後も一部残る利用不便地域において、令和3年(2021年)9月から月2回、資料の提供を行う配本

サービスを開始しています。

利用不便地域が一定解消されたことから目標を達成したものとして、No.3、No.4 ともに、評価は「A」としました。

・広域利用の促進について (表のNo.5)

平成29年(2017年)7月から北摂7市3町(吹田市、豊中市、池田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町)の広域利用が実施されました。吹田市と大阪市との図書館広域利用については、大阪市民が利用できる館として平成26年(2014年)にさんくす図書館から開始し、その後、平成31年(2019年)1月に江坂図書館を追加しました。

各自治体との協議により、広域利用が拡充されたため、評価は「A」としました。

【図書館の自己評価】
図書館施設及びサービス網
の整備
A

【図書館協議会の評価】
図書館施設及びサービス網
の整備
A

【図書館協議会の講評】

- ・吹田市に限なく図書館サービスが行きわたることは、市民の文化教育活動の向上に寄与している。
- ・収納能力には電子書籍の普及が関係してくると思われ、収納方法も検討を要する。
- ・コロナ禍で、アクションプラン自体が進めにくい中、多様性を重視したサービスの充実が進んでいる。

(2) 利用促進

No.	事業名	具体策・方法	実施時期	目標達成の指標			
				項目	目標	結果	達成値
6	年間貸出目標の達成	図書や視聴覚資料およびデータベース等の収集と利用促進で貸出数の増加を図る	10年	貸出点数	数値目標 (420万)	360万点	C
7	広報・広告事業の促進	ホームページコンテンツの充実とTwitterやUstreamの利用で情報発信機能の向上を図る	2-3年	コンテンツの更新回数	成果物の発行	563回 (Twitter)	A
8		Facebookによる広報誌の発行などで広報活動の充実を図る。	2-3年	コンテンツの更新回数	成果物の発行	452回	A
9		広告事業や寄付金募集などで地域経済の発展に寄与し同時に資料充実を図る	一部	参加・協力企業の数	経年比増	H29 3者 H30 4者	A
10	足を運べない人へのサービス	中央図書館の再整備に合わせて郵送貸出の実施を目指す	10年	郵送システムの構築	実施	未実施	D
11		電算システム更新時に電子図書の導入を行う	5年	ハイブリッド型図書館の実現	実施	実施	A

・年間貸出目標の達成 (表のNo.6)

図書館では図書や雑誌だけでなく、マンガや視聴覚資料なども所蔵し、また新聞記事や法律情報、医療情報等の商用データベース*も導入するなど、市民の知る権利に幅広く対応しています。

市民1人当たりの図書費は北摂7市の平均値を下回りますが、図書費以外に、視聴覚資料の購入費や有料データベースの使用料等があるため、人口規模も異なる自治体間での単純比較ではその妥当性は図れないものと考えます。1人当たりの蔵書冊数については、目標としていた3冊を達成しています。

「月に1冊の読書」を目指して、市民1人当たり年間貸出点数12点を目標に、約420万点を目指してきましたが、令和元年度(2019年度)から令和2年度(2020年度)にかけては、中央図書館の耐震及び大規模改修工事による長期休館や、新型コロナウイルス感染症拡大防止による休館の影響もあり、数値は大きく減少しました。しかしながら、コロナ禍が終息以降の見通しとしては、令和2年度(2020年度)に開館した健都ライブラリーが通常開館となり、令和4年度(2022年度)に北千里分室の移転・拡充、江坂図書館のPark-PFI*を活用した再整備計画も予定されているため、今後の図書館利用の実績向上は見込めると考えます。

平成30年度(2018年度)の時点では貸出数の目標を達成できていないため、No.6の評価は「C」としました。

今後は、令和3年(2021年)7月から開始した電子図書サービス「すいた電子図書館」を、紙の資料と合わせて活用することで利用促進を図ります。

また、電子図書の利用など、読書や情報取得のスタイルも変化していることから、従来の図書や雑誌の貸出数といった指標に加え、これからの図書館利用を視野に入れた、新しい評価指標の設定を考えていきます。

・広報・広告事業の促進（表のNo.7・No.8・No.9）

ホームページにおいては子供向けや地域資料のコンテンツ*の充実を図るとともに、各ページの使い勝手の向上を目指しています。また SNS*を活用した情報発信として、公式アカウントによる Twitter、Facebook を運用している他、メールマガジンでの情報提供を実施しています。Twitter では、毎日の開館情報や開催行事の案内の他、月ごとのテーマに合わせた資料の紹介を日替わりでツイートし、読みたくなる、行きたくなる仕掛けづくりを続けています。Facebook では、写真を使った行事報告や最寄りの図書館に興味を持ってもらえるような各図書館の PR 記事と、周辺の地域の話題なども掲載しています。（Ustream*については、平成 29 年（2017 年）3 月でサービス終了）

いずれのサービスも、継続的に情報発信を続けていることで、No.7 と No.8 の評価はともに「A」としました。

しかし、令和 3 年度（2021 年度）に行った図書館市民アンケートの結果などにおいて、ホームページの蔵書検索・予約サービス以外のページやメールマガジンについて、認知度が低いことがうかがえるため、より魅力的で効果的な情報発信の方法を検討する必要があります。

広告事業については、地域経済の活性化を目的として、平成 24 年度（2012 年度）から図書館の資料を貸し出す際に発行する貸出レシート及び図書館ホームページに民間企業等の広告を掲載する事業を実施しており、貸出レシート広告については、毎回一定数の申込みがあります。また、平成 25 年度（2013 年度）からは、ブックスタート*用絵本を配付する際に使用する袋の無償提供（事業者の広告付）を受け付けています。

これらの広告事業への応募は、図書館の集客力及び周知機能に一定の価値が認められているものと考えられ、No.9 の評価は「A」としました。

今後も様々な事例を参考にし、図書館の魅力を生かしながら地域経済の発展に寄与できるような事業を継続していきます。

・足を運べない人へのサービス（非来館型サービス*）（表のNo.10・No.11）

「図書館が遠い」、コロナ禍においては「外出を控えたい」等の事情により来館が困難な利用者に対し、他市の利用実態などを参考にし予約資料の郵送貸出サービス（有料）の実施を検討しましたが、現在も実施には至っていません。そのため No.10 の評価は「D」としましたが、「非来館型サービス」の選択肢の一つとして、引き続き多様な方策を検討しサービスの充実につなげてまいります。

※障がい等により来館が困難な方への郵送貸出サービス（無料）については、2(3)

高齢者・障がい者サービスの充実の「来館困難者へのサービス」（p20 参照）として実施。

一方で、令和3年（2021年）7月から電子図書サービス「すいた電子図書館」を開始しました。来館することなく、24時間365日いつでも好きな時にタブレット端末やスマートフォンなどから読書を楽しむことができます。電子図書の活用については、今後も引き続き量的拡充及び質的向上を図り、いつでも誰でも図書館を利用できる、読書を楽しめる環境の整備に努めてまいります。

電子図書サービスを導入したことにより、非来館型サービスの選択肢を増やすことができたため、No.11の評価は「A」としました。

その他、基本構想ではICTの活用と新しいサービスとして、ICタグを使った無線による資料管理システムの導入を課題の一つにあげていました。平成28年度（2016年度）の図書館電算システム更新時に、全館でICタグを活用したシステムを導入し、貸出・返却時の待ち時間の短縮や予約本のセルフでの受取など、利用者の利便性向上を実現しました。

【図書館の自己評価】

利用促進

A

【図書館協議会の評価】

利用促進

A

【図書館協議会の講評】

- ・ ホームページや SNS を通じた情報発信は時代に即したもので、非常に有益な活動。
- ・ Facebook や Twitter、読み聞かせなど写真付きで分かりやすく紹介されており、子育て中の参加者の増加が見込める。
- ・ 本を借りるだけの図書館ではなく、様々な取組を多世代の方に周知し、活用してもらいたい。

(総評としては「A」評価となりましたが、一部委員からは「B」評価の意見もいただきました。)

- ・ 利用促進の根幹は、市民の図書館利用の拡大だと思うので、貸出冊数が目標に届かなかったことを重く見て評価しました。電子書籍も継続的に購入費を確保しないといけないので大変ですが、市民の読書環境を一層充実するため、引き続きの努力をお願いします。
- ・ 情報発信は良くされているものの、誰も見ていないのでは意味がない。

(3) 資料と情報の提供

No.	事業名	具体策・方法	実施時期	目標達成の指標			
				項目	目標	結果	達成値
12	成人サービス	おすすめ本リストやパスファインダー等で読書の楽しさや図書館利用の便利さをアピールし貸出増を目指す	2-3年	各種リスト・パスファインダーの発行	成果物の発行	5件	A
13		一般成人向けの講座・講演会の開催や催し等を開催して、自己学習の支援を図る	一部	講座等参加者数	数値目標 (1,200)	4442人	A
14		読書会の開催等を通じて新規利用者の獲得と熱心な利用者の確保を目指す	2-3年	年間開催回数	数値目標 (2)	2回	A
15	地域資料の収集・保存と活用	郷土・行政資料の収集・保存とデジタル化を進め、リスト化・データベース化をして活用を図る	5年	年1回以上のデータ更新	数値目標 (6)	27回	A
16	レファレンス(相談業務)	全館で専用カウンターの運用及びレファレンスデータベースの構築と有効活用	一部	レファレンス受付件数	経年比増	H29 16,167件 H30 15,295件	B
17	行政支援サービス	本庁舎内への連絡窓口等の設置を行い物流の確保とレファレンスの受付で政策立案への支援を行う	10年	相談受付件数	経年比増	H29 17回 H30 18回	A
18	児童サービス	お話し会などの実施で読書活動を支援する	一部	行事参加者数	数値目標 (2,800)	15,658人	A
19		お楽しみ会、一日図書館員、その他児童向け行事の実施で図書館利用促進を目指す	一部	行事参加者数			
20		「おめでとう1年生」「もうよんだかな」「市民が選ぶ子どもたちに読ませたい100+5冊」を発行し読書活動を支援する	一部	発行部数	数値目標 (13,000)	16,500冊	A
21		児童向けホームページの開設で子どもの読書活動を支援する	5年	ホームページコンテンツの作成	成果物の発行	実施	A
22	ヤングアダルト(YA)サービス	「てくてく」の配布、YAサポーターによる行事の自主企画や直接参加を通じてYA層の利用増と定着を目指す	一部	行事参加人数	経年比増 (40)	62人	A

・成人サービス (表のNo.12・No.13・No.14)

読書の楽しみを知ってもらうため様々な方法で図書館資料の紹介を行っています。特設コーナーではテーマに沿った資料を収集展示し、手に取りやすい工夫を行っています。また、資料の紹介や検索方法をまとめた手順書「パスファインダー」*（「病気・病院」「認知症」「介護・療養」「就職・資格」）や、新着資料を紹介する「ほんのお知らせ」を発行し、図書館の資料をより利用しやすいよう案内しています。

継続的に、本の紹介リストやパスファインダー等の成果物の発行を行っているため、No.12の評価は「A」としました。

成人向けの講座としては、平成15年(2003年)より吹田ゆかりの人や地域住民を講師

に招いた「図書館講座じゅずつなぎ」*を全館で行っています。歴史講座やまち歩き、吹田の昔話の朗読など、吹田ゆかりの講師による講座は毎年好評です。その他「江坂ロビーフェスタ」*「暮らしに役立つ講座」「芸術講座」「朗読会」「ちょっと書庫まで」*など様々な内容の講座を開催しています。

これらの講座に数値目標を大きく超える参加者がありましたので、No.13 の評価は「A」としました。

読書会や図書館使いこなし講座など、本や読書に関する講座に関しては、読書会や、パソコンを使ったホームページ使いこなし講座を開催し、数値目標の達成と一定の効果を認め、No.14 の評価は「A」としました。これからも、利用者ニーズを掘り起こせるように、“本と人との出会いの場”を提供していきます。

・地域資料の収集・保存と活用 （表のNo.15）

地域（郷土・行政）資料については、吹田ゆかりの著者の資料、内容が吹田に関わる資料や吹田市が発行する行政資料などを積極的に集めています。収集範囲は図書に限らず、雑誌や新聞、地図、パンフレット、視聴覚資料など多様な資料形態にわたります。またホームページの「吹田を知る」のページでは地区ごとに関連資料を掲載し、メールマガジンでも「郷土の本棚」で吹田に関わる資料を紹介するなど、地域に関する情報発信を続けています。

地域資料の活用についての目標達成度は、リストや新聞記事見出しデータの更新数が目標数値を達成しており、No.15 の評価は「A」としました。

今後も引き続き、行政の責任として吹田市に関わる地域資料の収集と保存に努めてまいります。また、資料のデジタル化を促進することで、インターネット環境での情報発信やレファレンス等での利活用を図ります。

・レファレンス（相談業務）* （表のNo.16）

レファレンスの受付件数は、経年で見ると減少傾向にあります（令和2年度（2020年度）実績 6,669 件）が、メールでのレファレンス受付件数は、コロナ禍により来館サービスを制限したため、令和3年度（2021年度）になり増加しています。

メールによるレファレンスサービスをホームページで周知する他、図書館で実際に受けたレファレンス事例を紹介するリーフレット『図書館で調べもの』の発行や、メールマガジンで「調べ物手伝います」のコーナーを設けるなどして、サービスの周知を図り、利用促進に努めています。

来館時のレファレンス窓口である専用カウンターは、分室以外の全館で設置し、来館者にとって相談しやすい環境を整えています。また、レファレンスに活用できるよう、全館で辞典や新聞などの商用データベース*を利用できる環境を整備しています。

受付したレファレンス事例は、その一部を国立国会図書館のレファレンス協同データベース*に登録し、全国で活用されています。平成29年（2017年）には、累積データ登録

件数が1,000件（うち一般公開データは約500件）を超え、国立国会図書館から謝辞を受けています。

レファレンス受付件数は目標には至りませんでした。専用カウンターを設置していることや、国立国会図書館レファレンス協同データベースでの幅広い活用など、一定の成果をあげているとして、No.16の評価は「B」としました。

・行政支援サービス（表のNo.17）

市職員の政策立案のサポートを目的に、司書が資料やデータを提供する行政支援サービスを行っています。政策立案に役立つ「新着資料」の一覧データを作成するとともに「政策立案支援サービス申込用紙」を添付し、市職員に対してレファレンスサービスの利用を案内しています。また、行政支援の一環として、「環境問題」や「人権問題」など、市の様々な政策テーマに応じた特設展示を行い、市民への周知や問題提起に寄与しています。

市職員への行政支援サービスを展開する上で、市役所本庁舎に図書館の連絡窓口を設置し物流を図ることも、引き続き検討を行います。

行政支援の相談受付件数が経年比増となっているため、No.17の評価は「A」としました。

今後も、市職員に積極的にサービスを周知し、利用を促進するとともに、各部署の行政課題の把握に努め、求められる資料・情報を提供できるよう、司書の専門性の向上を図ります。

・児童サービス（表のNo.18・No.19・No.20・No.21）

子供に本を読む楽しみを知ってもらい、図書館に足を運ぶきっかけとするため、1年を通し、おはなし会や人形劇、工作教室などの行事を実施しています。特に「子ども読書の日」（4月23日）や「こどもの読書週間」（4月23日～5月12日）の時期に合わせて、毎年、吹田子どもの本連絡会*との共催で「子どもと本のまつり」*を開催しており、令和3年（2021年）で第38回目となりました。

夏休みの行事として、平成25年度（2013年度）から全館で、夏休みの宿題について相談を受ける「宿題タスケルンジャー」を実施しており、司書が読書感想文や自由研究などの相談に対応する他、関連資料のコーナー設置や調べ方ガイドを置いて、子供たちの学習をサポートしています。

行事の参加者数が目標を達成していることから、No.18とNo.19を合わせて評価は「A」としました。

子供に対する読書啓発用のツールとして、夏休み期間にあわせ、司書が選定したおすすめ図書の紹介冊子を毎年発行しています。4、5歳から小学生を対象とした『もうよんだかな？』*は、昭和50年（1975年）に創刊し、令和3年（2021年）に第47号を発行しました。中学生から18歳を対象とした『てくてく』*は、昭和60年（1985年）に創刊し、令和3年（2021年）に第37号を発行しました。子供たちが夏休みに多くの本と出会えるように全館で特設コーナーを設置しています。

小学生が楽しみながら読書に親しめる取組として、平成 26 年度（2014 年度）から読書貯金*『すいぽんつうちょう』の配布を始めました。令和 3 年度（2021 年度）には、ガンバ大阪の協力を得て、ガンバ大阪のマスコット「ガンバボーイ」と吹田市のイメージキャラクター「すいたん」を使用した新版を作成し、吹田市立小学校に通う全児童に配布しました。その他、令和 2 年度（2020 年度）に「ガンバボーイ」と「すいたん」のコラボレーションのシールを作成し、希望する小学生の借出カードに貼付する事業を実施しています。

平成 21 年（2009 年）に、市民からおすすめ図書を公募して作成した『市民が選ぶ子どもたちに読ませたい 100+5 冊』*については、発行から 10 年以上が経過したことから、令和 3 年（2021 年）に改めて公募を行い、『市民が選ぶ子どもと読みたい 100+5 冊の本』の名称に変更し改訂版を発行しました。これからも、市民と協力しながら子供の読書推進を図ってまいります。

読書啓発用冊子の発行部数が数値目標を達成していることから、No.20 の評価は「A」としました。

平成 28 年（2016 年）2 月の電算システムの更新に合わせ、図書館ホームページをリニューアルし、「子どものページ」を開設しました。利用案内、調べ方ガイドなどを子供にわかりやすい言葉で発信しています。ホームページを通して情報発信に努めていることで、No.21 の評価は「A」としました。

・ヤングアダルト（YA）サービス*（表のNo.22）

12 歳から 18 歳までのヤングアダルト（以下「YA」という。）世代を対象とした図書を集めた YA コーナーを、山田分室を除く全館に設置しています。また、毎年夏休みには YA 向けのおすすめ図書の紹介冊子『てくてく』を発行し、読書推進を図っています。

山田駅前図書館では、青少年活動サポートプラザとの連携による YA サービスに取り組んでいます。市内の高等学校の入学案内パンフレットのコーナーを設け、進学情報の提供を行うなど YA コーナーの利用を進め、居場所づくりを図っています。

YA 世代自身が図書館に関わる事業としては、『てくてく』に掲載する本の紹介文やイラストを公募しています。平成 30 年（2018 年）からは、編集委員としても参加し、同世代が手に取りやすい内容になるよう工夫を凝らしてもらいました。

また、YA サポーターを公募し、図書館業務を体験したり、自主企画を行ってもらったりしています。YA サポーターが中心となり、YA 世代を対象としたビブリオバトル*も開催しました。この活動を通じて図書館の存在を PR する他、YA 世代のニーズや感覚を捉え、サービス計画に反映する機会としています。

一方で、大阪府内の「本を全く読まない子どもの割合（不読率）」は中学 3 年生、小学 6 年生とも全国平均値よりも高い値となっています*。小学生時代に養った読書の楽しみが継続できるように、紙の図書だけでなく、令和 3 年（2021 年）7 月から開始した電子図書サービスなども活用して、引き続き YA 世代に有効な働きかけを行います。

行事参加人数が目標値を達成しているため、No.22 の評価は「A」としました。

※令和元年（2019年）全国学力・学習状況調査結果（文部科学省）による数値。

【図書館の自己評価】

資料と情報の提供

A

【図書館協議会の評価】

資料と情報の提供

A

【図書館協議会の講評】

- ・成人向けの講座・講演会、児童向けの行事など、多くの人に支持されているのは大変望ましい状況。
- ・新規利用者の獲得と熱心な利用者の確保の有効な方策を考えて欲しい。
- ・高齢者が興味を持つ行事、例えば解説付きの読み聞かせ、アンチエイジング主題のセミナーなどの開催は如何か。高齢者が増える中、周囲に時間をもてあます高齢者を多く見かける。その人達に豊かな時間を過ごすよう、図書館を本を読めるやすらぎの場としたいと思う。
- ・学校という単位だけでなく、子供が地域を越えて、「子ども図書館会議」とかボランティアのように、図書館の活動に関われるものがあると良い。

2 生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにします

(1) 施設や地域との連携

No.	事業名	具体策・方法	実施時期	目標達成の指標			
				項目	目標	結果	達成度
23	男女共同参画センター情報ライブラリー・平和祈念資料館との連携	男女共同参画センター情報ライブラリー・平和祈念資料館などとの情報共有を目指す	5年	横断検索システム・蔵書リストの作成	成果物の発行	実施	A
24	児童会館・児童センターとの連携	児童会館・児童センターとの情報や協力関係の充実を目指す	5年	団体貸出冊数、講師派遣回数	経年比増	H29 4回 H30 6回	A
25	博物館との連携	博物館との情報共有を図るとともに市民協働で地域資料アーカイブスの構築を目指す	5年	リストやホームページコンテンツの作成	成果物の発行	実施	A
26	吹田市出前講座の充実と活用	吹田市出前講座の活用を図るとともに公民館などへの講師派遣等を通じて生涯学習推進体制の充実を図る	一部	出前講座の実施件数	数値目標(6)	13件	A
27	地域との連携	市民参加の図書館活動を目指し利用者懇談会の実施や、自治会への働きかけを通じて地域づくりに貢献する	2-3年	懇談会実施回数	数値目標(2)	2回	A

・男女共同参画センター情報ライブラリー・平和祈念資料館との連携 (表のNo.23)

男女共同参画センター情報ライブラリーとは、図書館ホームページ上にて資料を一体的に横断検索ができるシステムとしている他、情報ライブラリーの資料を図書館窓口で返却受付するなどの協力を行っています。

千里図書館では、千里ニュータウンプラザに所在する各施設と様々な連携を行っており、平和祈念資料館とは、レファレンスの受付や相互貸借*の協力を行っています。千里ニュータウン情報館とは、企画展の際にブックリストを作成し、関連図書の特設展示を行っています。また、吹田市国際交流協会に対しては、外国人利用者の図書館見学を実施する他、図書館主催行事の講師の紹介を受けたり、図書館から多言語資料の紹介や提供を行いました。

横断検索システムの構築やレファレンスの受付、企画展のブックリストの作成などを行っていることから、No.23の評価は「A」としました。

・児童会館・児童センターとの連携 (表のNo.24)

児童会館・児童センターの主催行事へ司書を講師として派遣し、職員や保護者向けに絵本の紹介や読み聞かせの講座を開催することで、子供の読書と図書館利用促進を図っています。また、ブックスタートで配布する絵本の見本を児童会館・児童センターに設置し、図書館のブックスタート事業のPRの協力を得ています。その他、相互に広報協力するなどの連携を行い、読書環境の向上に努めています。

市民が必要とするサービスを提供できる協力体制が構築されていること、講座の実施回数が経年比で増加していることにより、No.24の評価は「A」としました。

・博物館との連携（表のNo.25）

図書館主催講座の講師を学芸員に依頼し、巡回展示の共催をする他、図書館からも博物館の企画に図書館資料を提供したり、司書が絵本の読み聞かせを行うなど、連携を実施しています。レファレンスにおいても、相互に協力を行っています。

令和2年（2020年）に開館した健都ライブラリーでは、博物館専用の展示ケースを設置し、0系新幹線の車内展示とともに、学芸員が定期的に展示品の入れ替えを行っています。

講座やレファレンスなどの相互協力を行っている他、講座開催時に関連資料のリストを作成していることなどにより、No.25の評価は「A」としました。

地域資料に関するアーカイブ構築では、映像資料や写真、文字資料、地図など様々な形態の資料をどのように収集、保存、公開していくかといった課題に対し、連携・協力を密にしていく必要があります。

・吹田市生涯学習出前講座*の充実と活用（表のNo.26）

市の生涯学習出前講座の利用を含めた講師派遣は、様々な団体の申込みにより増加しています。テーマは多岐にわたり、おすすめ資料の案内や図書館の活用方法、読み聞かせのコツ等、市民のニーズに沿ったプログラムを提供しています。山田分室では、西山田地区公民館との連携事業として、司書が公民館でブックトーク*と読み聞かせなど行う「ほんのひろば」*を定期的で開催しています。

コロナ禍で対面での講座の開催が困難となったため、今後はオンライン講座なども含め、市民の知的好奇心に添えるべく、プログラム内容の充実を図ります。

目標を上回る事業を実施したことにより、No.26の評価は「A」としました。

・地域との連携（表のNo.27）

各図書館で、地域の保育所や子育て関連施設のパフレット、逐次刊行物、市内施設案内、催し物に関するチラシなどを設置して地域情報の発信に努めています。また、地域の公民館や自治会、隣接する施設に行事等の案内を配布し、図書館利用の促進を行っています。

市内の大学とは協力協定を結び、図書館実習生を優先的に受け入れており、また、吹田市民には大学図書館を利用できる仕組みがあります。国立民族学博物館とも連携を進めており、令和3年（2021年）10月には、国立民族学博物館から講師を迎え、子供向け講演会を開催しました。また、地域の医療機関とも連携し、医療機関の職員による健康医療情報講座を定期的で開催しています。

利用者懇談会については、障がい者サービスにおいて、利用者、関係団体との懇談会を開催する他、山田駅前図書館で図書館の主催事業などについて協議する図書館フロア委員会*を組織し、利用者のニーズの把握に努めています。

利用者懇談会の開催回数は数値目標に達し、No.27の評価は「A」としましたが、より積極的に地域へ働きかけを行う必要があります。

【図書館の自己評価】
施設や地域との連携

A

【図書館協議会の評価】
施設や地域との連携

A

【図書館協議会の講評】

- ・ 出前講座の実施や児童会館などとの連携の拡大に努力が認められます。利用者懇談会について、障がい者サービスに限らず、実施を検討してください。
- ・ さまざまな施設との連携は、図書館の視野を広げることに繋がり、さらなるサービス向上の気づきになればよい。

(2) 自己実現の援助

No.	事業名	具体策・方法	実施時期	目標達成の指標			
				項目	目標	結果	達成度
28	ボランティア活動の推進	ボランティア団体によるリサイクル本の有料販売などで自主財源の確保とボランティア活動の活性化を図る	5年	ボランティア総数	数値目標 (1,000)	607人	B
29	学習成果の活用の機会の提供	読書会や講座・講演会から生まれた自主活動の支援等を通じて学習成果の活用の場の提供を目指す	5年	毎年活動の場の数を増やす	数値目標 (1)	11回	A
30	各種事業への市民参画	市民の参画で各種事業の企画立案を行う	2-3年	企画数	数値目標 (1)	2回	A

・ボランティア活動の推進 (表のNo.28)

平成30年度(2018年度)末の時点で、607の方が図書館でボランティアとして活動されています。内訳は、児童サービスに関わるボランティアが11団体298人(うち図書館が養成した読み聞かせボランティア2団体210人)、音訳・点訳ボランティア11団体215人、個人登録ボランティア(図書館フレンズ)57人、その他のボランティアグループが2団体37人となっています。

読み聞かせボランティアや音訳・点訳ボランティアの活動は、現在図書館運営の基盤を支える重要な市民参画活動となっており、養成講座、スキルアップ講座、交流会を定期的に行うことで、登録の促進、活動の継続を図っています。平成24年(2012年)に立ち上げた、気軽に社会活動に参加できる「図書館フレンズ」*は、目標である50人以上の登録を達成しました。

しかしながら、図書館に関心をもち、ボランティア活動を希望する人が、自主的に幅広い活動を行える新たな参加の場を作ることは実現できていません。ボランティア数については、会員の高齢化やコロナ禍の影響で活動から遠ざかるなど様々な理由で、ここ数年は減少が続いており、令和2年度(2020年度)末の時点で25団体592人となっています。また、新たなボランティアの登録が課題となっているため、No.28の評価は「B」としました。

今後も既存のボランティア活動を支援するとともに、目標値の設定が妥当であるかの見直しも含め、ボランティアの関心や意欲に沿う新規分野での活躍の場を市民とともに開拓するなど、検討していく必要があります。

・学習成果の活用の機会の提供 (表のNo.29)

図書館で開催した「手づくり絵本講座」の修了生が会を設立し、さわる絵本*づくりの活動を継続しています。会が製作したさわる絵本は、吹田市立図書館の蔵書として受け入れ、障がいをお持ちの方等に貸出するなど、活用しています。同様に、図書館の講座参加者が自主活動の会を立ち上げ、活動の成果として会誌を定期的に発行するなど、息の長い活動をしている事例もあります。また、音訳ボランティアの活動から、絵本の読み聞かせや朗読会など、自主的に活動の場を広げている方もいます。

数値目標を達成しているため、No.29の評価は「A」としましたが、すべての団体の活動実態を把握することが難しい指標であるため、目標値の設定については検討が必要です。

・各種事業への市民参画（表のNo.30）

平成28年度（2016年度）から千里丘図書館で始まった、図書館の閲覧フロアや階段壁面スペースを利用した「市民作品展示」*は、市民の自己実現の場として活用されています。また、作品展示に参加した市民を講師に迎えた講座も実施しました。千里山・佐井寺図書館では、同館を活動の拠点とするボランティアグループ「吹田図書館ともの会」による「暮らしに役立つ講座」が開催されました。

目標を上回る事業を実施できたため、No.30の評価は「A」としました。

【図書館の自己評価】

自己実現の援助

A

【図書館協議会の評価】

自己実現の援助

A

【図書館協議会の講評】

- ・ボランティアの自己実現について、伊万里図書館など優れた活動をしている図書館にもっと学べることはないでしょうか。
- ・サービスが多様化するなか、ボランティアによる援助はウィンウィンの関係になると思います。
- ・これからもボランティアや自主活動など市民参加が図書館から広がり、本を読みたいと思う人が増える事を願います。

(3) 高齢者・障がい者サービスの充実

No.	事業名	具体策・方法	実施時期	目標達成の指標			
				項目	目標	結果	達成度
31	視覚障がい者サービス	対面朗読サービスの実施と音訳図書や点字図書の製作	一部	音訳図書貸出回数及び対面朗読実施回数	数値目標 (2,800)	4,747回	A
32	来館困難者へのサービス	本の宅配や郵送貸出ならびに施設訪問を通じて在宅・施設入所者等へのサービス提供を目指す	5年	貸出方法の確立	実施	実施	A
33	聴覚障がい者サービス	手話ボランティアの配置	5年	利用人数	実施	未実施	D
34	障がい児サービス	関連施設や支援学校との連携を図りながら触る絵本やマルチメディアデジターの資料充実を図る	一部	資料の充実	経年比増	H29 11点 H30 13点	A

・視覚障がい者サービス (表のNo.31)

対面朗読実施館は、令和2年(2020年)11月の健都ライブラリー開館により8館となり、全館で毎年700回以上の利用があります。令和3年度(2021年度)に、オンラインでの対面朗読が実施できる環境を整備しました。

資料の貸出では、毎年、録音図書は約4,000タイトル、点字図書は約90タイトルの利用があります。資料の製作では、毎年、録音図書を約100タイトル、点字図書を約20タイトル製作しており、サピエ* (視覚障害者情報総合ネットワーク) 加盟の図書館と国立国会図書館にデータを提供しています。また、資料紹介ツールとして、「声の市報すいた 図書館だより」(点字版・音声版)の発行も継続しています。

資料の製作にあたってボランティアの養成も行っています。音訳ボランティア養成講座は毎年開催、点訳ボランティア養成講座は3年間を1サイクルとして開催しています。

また、音声デジター*再生機を8館1分室で所蔵し、利用体験や機器の貸出に活用しています。

視覚障がい者サービスについては、サービスの拡充が図ったことと数値目標を達成したことで、No.31の評価は「A」としました。

・来館困難者へのサービス (表のNo.32)

平成29年度(2017年度)から、障がい等で来館が困難な方への墨字図書(紙の図書)の郵送貸出を開始しました。平成30年度(2018年度)には、延べ利用者が100名、貸出冊数200冊を超える利用があり、その後も継続的に利用されています。

来館困難者へのサービスについては、郵送貸出の貸出方法が確立したことからNo.32の評価は「A」としましたが、施設入所者への貸出に関しては、資料の運搬方法の確立と関係機関との連携が課題となっています。

・聴覚障がい者サービス (表のNo.33)

ほぼすべての講座や行事で手話通訳の申込みを受け付け、要望に応じて配置し、年に1回以上の利用があります。また、従来カウンターに設置していた「耳マーク」*を全館の出入口にも掲示し、施設外から“筆談可能な施設”であることがわかるようにしました。

聴覚障がい者サービスについては、講座や行事での手話通訳を専門機関に依頼して手配していますが、指標としている手話ボランティアの配置については実施には至っていません。指標の見直しを含めた課題の整理が必要と考え、No.33の評価は「D」としました。

今後は、日常会話に必要な手話表現の技術を習得した司書の養成を進めるとともに、ICTを活用するなど、幅広い方法で意思疎通支援の行える環境の整備を図ってまいります。

・障がい児サービス (表のNo.34)

平成28年度(2016年度)から平成30年度(2018年度)にかけて、成人の知的障がい者を対象とした「公共図書館における知的障害者への合理的配慮のあり方に関する研究」(文部科学省及び日本学術振興会による科学研究費助成事業)に、吹田市立図書館として研究協力したことをきっかけに、知的障がい者(児)への「図書館体験ツアー」が開始されました。平成30年度(2018年度)には、放課後デイサービスの子供たちが、令和元年度(2019年度)、令和2年度(2020年度)には、大阪府立吹田支援学校の児童・生徒たちが「図書館体験ツアー」に参加し、LLブック*やマルチメディアデジター*、さわる絵本*などで読書の楽しさを感じる機会を提供しました。

令和3年度(2021年度)からは、「さわる絵本おまかせ定期便」として、小学校の支援学級などへの団体貸出を行い、さわる絵本をはじめとした資料を提供しています。さわる絵本は、No.29で前出したボランティアグループの協力のもと、毎年1、2冊制作しています。

その他、ブックスタートの配布絵本に、点字絵本(『いないいないばあ』、『じゃあじゃあびりびり』)を追加しました。

障がい児サービスについては、関係機関との連携をとりながら資料の充実を図ってきたことで、No.34の評価は「A」としました。

・その他

平成28年(2016年)に、千里山・佐井寺図書館で、大活字本、点字図書、ユニバーサル絵本*、さわる絵本*、LLブック*などを集めた、ユニバーサルコーナーを新設しました。また、全館の対面朗読室を、「よむ・きくへや」「やすむへや」*としても利用しています。

令和2年度(2020年度)には5館で、どの本棚にどんな本があるのか分かりやすいように、本棚にピクトグラム*を掲示しました。また、LL版図書館利用案内*も作成し、紙媒体で配布する他、図書館のホームページ上でも公開しています。同ホームページ上では、「高齢者向け紙芝居リスト」や「音声解説付きDVD・日本語字幕付きDVD」リストも公開しています。

また、さんくす図書館では、認知症や介護、高齢者の運動の本など関係資料を集めたシニ

アコーナーを設置しています。

今後も、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」（平成28年（2016年）4月施行）や「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）」（令和元年（2019年）6月施行）等の趣旨も踏まえ、障がいの有無に関わらずすべての人が文字・活字による情報・文化を利用できるよう、利用者一人一人に寄り沿ったサービスを進めていきます。令和3年（2021年）7月から始まった「すいた電子図書館」サービスも、その一助として利活用を図ります。

【図書館の自己評価】

高齢者・障がい者サービス
の充実

A

【図書館協議会の評価】

高齢者・障がい者サービス
の充実

A

【図書館協議会の講評】

- ・対面朗読室を、「よむ・きくへや」「やすむへや」に有効活用されているのは非常に良いと思います。
- ・障がい者への郵送貸出が実現したことは大きな成果。ただ、高齢者へのサービスについて、あまりサービスが展開されていない。これからの課題として、認知症の利用者へのサービスを含めて考えていってもらうよう期待する。
- ・すべての市民に同様の図書館サービスが提供されることを望みます。
- ・高齢者サービスは、身体的以外に精神的なものが必要。高齢者が豊かな時間を過ごす為に、興味を持つ小説の解説や健康に関するセミナーなど。
- ・来館できなくても本が読めるのは生活の充実にもつながるため、そのサービスをもっと知ってもらいたい。

(4) 特色あるサービス

No.	事業名	具体策・方法	実施時期	目標達成の指標			
				項目	目標	結果	達成度
35	ビジネス支援サービス	市内企業や関連機関との連携および資料の充実	一部	関連施設との共催事業	数値目標 (1)	1回	A
36	多文化サービス	外国語資料の充実や子ども向けの読み聞かせ会などの実施で在日外国人などの支援と相互理解を図る	一部	読み聞かせ等年間行事回数	数値目標 (2)	2回	A
37	健康・医療情報サービス	保健・医療機関との連携を図り、資料の充実や健康・医療情報コーナーを設置する	一部	関係機関との年間連携回数	数値目標 (2)	2回	A
38	就労・就業支援	JOBナビすいた・JOBカフェすいたとの連携を図り、ハロー！ジョブ・コーナーの設置と資料の充実を図る	一部	関係機関との連携による年間資料リスト作成点数	成果物の発行 (1)	1点	A
39	地域経済への貢献	ガンバ大阪との共催事業や広告事業で地域の活性化や地域経済への貢献を目指す	一部	事業数	数値目標 (5)	0件 (R2 4件)	D (B)

・ビジネス支援サービス (表のNo.35)

吹田市は府内でも開業率*が高い市であることから、起業や創業者への支援に積極的に取り組んでいます。

図書館でも、地域経済振興室と連携し、情報や資料提供の面から支援することで、地域経済の活性化への貢献を図っており、江坂図書館では、ビジネスの調査に必要な資料を揃えた「ビジネス書コーナー」を設置している他、ビジネスをテーマとした講座を開催しています。また、千里図書館では、「起業コーナー」を設け関連資料を特設しています。その他、図書館でのビジネス支援サービスや、ビジネス関係の資料を紹介したリーフレット(『ビジネス支援だより』)を発行しています。

今後も地域のニーズの変化等に注視しながら、関連機関との連携に努めるとともに、商業データベース*をはじめとした資料の幅の充実を目指します。

関連機関との共催事業が実施できていることから、No.35の評価は「A」としました。

・多文化サービス (表のNo.36)

外国人の方も利用しやすい環境づくりを目指し、3か国語(英語・中国語・ハングル)での利用案内を、紙媒体と図書館ホームページ上の電子媒体で用意しています。

また、海外の受賞作や話題作、市民が外国語を学習、習得するための外国語資料を毎年継続して購入しており、特に多文化サービスの拠点館である千里図書館には、令和2年度(2020年度)末現在で約3,000冊の外国語資料の蔵書があります。今後は電子図書でも外国語資料の数を増やし、アクセシブルな読書環境の整備に努めるとともに、語学学習用の利用も促進していきます。

千里図書館で、英語による絵本の読み聞かせや外国文化を知る講演会を行ったことで、No.36の評価は「A」としましたが、市内在住外国人の方の行事への参加は少なく、日本語を

母語としない人々のニーズを把握し応えていくことが課題です。

・健康・医療情報サービス （表のNo.37）

吹田市は「健康づくり都市宣言」のもと、市民の健康増進や病気の予防・早期発見につながるさまざまな取組を進めています。

図書館での健康・医療情報サービスは千里図書館から始まり、同館では闘病記コーナーを設置する他、近隣医療機関と連携して講座や講演会を開催しています。講座の開催に合わせて、ブックリストの作成や特設コーナーの設置も行っています。また、「病気・病院」「認知症」「介護・療養」について調べるためのパスファインダー*を、それぞれ発行しています。

令和2年（2020年）に供用開始した健都ライブラリーでは、医療やスポーツに関する本を重点的に集める他、血圧計や体組成計などを設置したコーナーを設けました。その他、健康づくりに関する講座や教室を開催しています。また、保健センターや国立循環器病研究センター、市民病院と連携した取組も進めています。

健都ライブラリーの開館により、サービス全体が充実したことから、No.37の評価は「A」としました。

・就労・就業支援 （表のNo.38）

さんくす図書館では「ハロー！ジョブ・コーナー」を設置し、就職や仕事に役立つ資料を紹介する他、同コーナーには、吹田市の就労支援センター「JOB ナビすいた」等の関連施設のパンフレットやちらしを設置しています。また、「就職・資格」について調べるためのパスファインダーも発行しています。

パスファインダーの発行を定期的に行っていることから、No.38の評価は「A」としましたが、図書館が支援を求める人のサポーターとなれるよう、今後も資料の充実及び関連機関との連携を継続していきます。

・地域経済への貢献 （表のNo.39）

地域の活性化を目的とした文部科学省の「図書館海援隊」プロジェクト「図書館からスタジアムへ行こう！！スタジアムから図書館へ行こう！！」の参加企画を平成23年（2011年）から平成26年（2014年）まで4回実施しました。このプロジェクトは終了しましたが、令和2年度（2020年度）の実績として、No.20で前出した、「ガンバボーイ」と「すいたん」のコラボレーションシールを借出カードに貼る企画や、吹田市立小学校の全児童に配布した読書貯金*『すいぼんつうちょう』にチームのロゴマークをデザインするなど、図書館とガンバ大阪との連携を継続しています。

各図書館ではポスターやフラッグを掲示し、ガンバ大阪のホームタウンとして、PR及び応援活動を行う他、ガンバ大阪のスタジアムに職員が出向き、試合前後に、図書館クイズやリサイクルフェアなどを実施することで、図書館のPRを行いました。

評価基準年度の平成30年度（2018年度）には実績がないため、No.39の評価は「D」

としましたが、ガンバ大阪との連携事業は引き続き行っており、令和2年度（2020年度）から令和3年度（2021年度）にかけては、複数の企画を実施していることから、令和2年度（2020年度）の実績として「(B)」の評価を併記しています。

【図書館の自己評価】

特色あるサービス

A

【図書館協議会の評価】

特色あるサービス

A

【図書館協議会の講評】

・サービスの認知度が上がることを望みます。

3 子育て支援や学校との連携を通して、子どもの健やかな成長に役立ちます

(1) 子ども読書活動支援センター機能*の充実

No.	事業名	具体策・方法	実施時期	目標達成の指標			
				項目	目標	結果	達成値
40	子育て支援サービス	ブックスタート事業の実施とその後の年齢別読み聞かせなどのフォローによる乳幼児向けのサービスの展開	一部	全館のブックスタートのひろばや読み聞かせの参加者数	数値目標 (23,000)	20,257人	B
41	学校連携	図書館見学・職業体験授業・学校訪問の他、講師派遣ならびに調べ学習の支援で学校との連携を図る	一部	参加人数	数値目標 (2,300)	2,302人	A
42	児童会館・児童センターへの支援	児童会館・児童センターとの連携でいつでもどこでも読書活動ができる環境整備を図る	5年	出前講座等の参加者数	*数値目標 →経年比増	H29 196人 H30 122人	B
43	講座・講演会の開催・後援	児童文学に係る講座・講演会の開催や展示会他を開催して、児童文学の普及と読書活動支援者の育成を図る	一部	講演会等参加者数	数値目標 (1,700)	663人	B
44	吹田市出前講座その他講師派遣	学校図書館や幼稚園・保育園ならびに地域・家庭文庫への講師派遣で読書活動支援者の育成を図る	一部	講座等参加者数	数値目標 (430)	582人	A

・子育て支援サービス (表のNo.40)

赤ちゃんの心豊かな成長を願い、絵本を贈る取組として、平成15年(2003年)10月からブックスタート事業*を開始しました。平成16年(2004年)1月からは、読み聞かせの方法やわらべうた、絵本を紹介する機会として、ボランティアとの協働で、0・1歳の乳幼児とその保護者向けに「ブックスタートのひろば」*を実施しています。2・3歳の幼児とその保護者向けには、「おひざで絵本」*を実施しています。その他、全館で1歳の幼児とその保護者向けに読み聞かせのコツを学ぶ「抱っこで絵本講座」*を、中央図書館では、絵本の読み聞かせや手遊び、わらべうたを親子で楽しむ会「親子で絵本とわらべうた」*を、いずれも司書が講師として実施しています。

「ブックスタートのひろば」の参加人数は、平成26年(2014年)の16,856人をピークに減少傾向にあります。要因として、市域の子育て支援サービスの充実が考えられます。保健センターやのびのび子育てプラザ、地域の保育所、児童館・児童センターはもとより、子育て広場やサロンなど、乳幼児を連れて訪れる場所の選択肢が増えています。目的や用途により、市民が場所を選べるような状況になってきた中においても、乳幼児期における絵本とのかかわりの大切さを伝える重要な事業として、より一層工夫を行い実施します。

山田駅前図書館(共催:のびのび子育てプラザ)と千里図書館では、就学前の乳幼児と保護者が、周囲を気にせず読書を楽しめる時間を提供する企画を定期的で開催しています。

(平成30年度(2018年度)実績 山田駅前図書館(「ひとりのびのび読書タイム」*)6回開催、延べ53人参加、千里図書館(「親子わくわく読書ひろば」*)13回開催、延べ115人参加)

ブックスタート事業の参加人数が目標値を下回りましたが、子育て支援サービス全体と

して十分な取組が行えているとして、No.40 の評価は「B」としました。

課題として、2・3歳向けの「おひざで絵本」の次の年齢層である4歳頃からは、各館で「おはなし会」や「えほんのじかん」を実施していますが、利用者の定着には至っておりません。ブックスタートからの家庭での読書習慣を学齢期までつなげるための、新たな取組を検討していく必要があります。

・学校連携（表のNo.41）

図書館見学（主に小学校）や職業体験（中学校）等、児童や生徒の図書館理解を深める取組を全館で実施しています。また、学校図書館の調べ学習の支援として、図書館資料を1か月間貸出し、資料面でのサポートも行っています。令和2年（2020年）5月には吹田市立小中学校の団体貸出冊数の上限を100冊から200冊に増やし、支援の強化を図りました。

令和3年（2021年）8月までは、自動車文庫車両を活用し、「ごりまる便」*の名称で、団体へ資料を運ぶ事業を実施しました。団体への貸出資料は、学校から調べ学習用として要望のあった図書の他、No.20で前出した、『もうよんだかな?』と『てくてく』に掲載された中から選んだ図書を1学期間貸出する「もうよんだかな?」セット*があり、平成30年度（2018年度）の実績は、小学校24校に対して153セット6,120冊貸し出しました。自動車文庫廃止後の9月以降についても定期連絡便を運行し、学校と図書館間の物流の確保に努めています。

「ごりまる便」を活用したその他の事業としては、自動車文庫で小・中学校を訪問し、車両見学や、司書による読み聞かせなどを行う「ごりまる学校訪問」*を、平成25年度（2013年度）から実施していました。

その他、図書館ホームページ上に、「学校支援のページ」を作成し、団体への貸出や、図書館見学、学校訪問などの利用案内を掲載しています。また、申込フォームから貸出の申込みができるように対応しています。

学校に対し授業に関わる活動を積極的に支援したことにより、No.41の評価は「A」としました。

・児童会館・児童センターとの支援（表のNo.42）

No.24で前出したように、児童会館・児童センターの主催行事に司書を講師として派遣していますが、定期的に利用される施設がある一方、利用されない施設もあるため、それらの施設に対する積極的な働きかけが課題となっています。その他、図書館で不要となった児童書を優先的に譲渡し、有効活用を進めています。

講座等の参加人数が目標値を達成できていませんが、施設との連携・支援が継続されていることから一定の成果があるとして、No.42の評価は「B」としました。

※No.42のアクションプランの評価指標は「数値目標」でしたが、目標とする数値が未設定だったため、「経年比増」で評価しています。

・講座・講演会の開催・後援 (表のNo.43)

子供に本を手渡す大人に児童文学への興味を持ってもらう取組は、子供の読書活動推進につながることから、「吹田子どもの本連絡会」*との共催で、「子どもと本の講座」を30年以上に渡って継続実施してきました。また、絵本作家や児童文学作家を招いての講演会や絵本の原画の展示など、同会との共催で継続実施しています。

後援事業については、団体への貸出による資料面の支援などで協力しています。

参加人数の目標数値に対し実績が下回りましたが、長年に渡り事業を継続してきたことや、子供の読書活動を推進する吹田市の取組として一定実績があり、府内でも広く認知されていることから、No.43の評価は「B」としました。

・吹田市出前講座その他講師派遣 (表のNo.44)

各施設の要望に合わせた前講座等に司書が講師として出向いています。図書館司書による講座を年間のプログラムとして採用している施設もあることから、内容への満足度は高いと自己評価しています。読書活動支援者へのサポートプログラムでは、司書が学校図書館へ出向き、読書活動支援者の相談を受け、助言しています。

現在、吹田市に4つある地域・家庭文庫*の活動に対しては、要望に応じ、団体への貸出資料の提供や、選書等による支援を行っています。

講座等の参加者人数が数値目標を達成しているため、No.44の評価は「A」としました。

【図書館の自己評価】

子ども読書活動支援センター
機能の充実

B

【図書館協議会の評価】

子ども読書活動支援センター
機能の充実

B

【図書館協議会の講評】

- ・吹田のすべての子供たちの読書を保障するためには、学校図書館への支援が欠かせません。その点で、HPに学校支援のページを設けたこと、定期連絡定期連絡便を実現したことは、大変評価できると思います。今後とも、読書活動支援者への研修などさらに積極的に担って行ってください。子育て支援サービスについて、アンケートの結果を見ても市民の期待が高い分野だと思います。ブックスタートで何とかすべての赤ちゃんに絵本を手渡せることを願います。
- ・コロナ禍で大変だったと思いますが、今後とも感染対策をしながら工夫しての取組よろしくお願い致します。
- ・子供サービスの充実は、吹田市の教育レベルのさらなる向上を期待できると思います。
- ・子育て支援のブックスタートや「ブックスタートのひろば」はかなり定着して、周囲でも参加の方をよく見かけます。状況によって参加の数の増減は仕方ないと考えます。それだけで評価は難しいです。子育て支援で4歳児以降学齢前の子供たちへの対応は、子供自身が幼稚園などへ通い、図書館の利用が減ることが大きいと思います。
- ・数値目標に達していなくてもよく活動していると思う。
- ・参加人数で評価するとBとなると思いますが、内容的にはAと考えます。
- ・コロナ禍で活発な活動ができませんが、小さい頃から本に触れる機会は充実して欲しいので、その第一線が図書館であって欲しいと思います。
- ・コロナ禍の中、図書館の利用を控えている人もいると思います。回数を増やすなど工夫をしてたくさんの人に安心して利用してもらえるよう頑張っていたきたいです。

【その他図書館協議会でいただいた全体に対する意見】

- ・館によって運営形態が異なる状況を考えると、将来をみすえた評価のあり方を検討していく必要があると思います。
- ・すべての評価を、数字の達成で表すことはできないと思っています。見える形で表すのはそれしかないのでしょうか。例えば、講座や子育て支援の活動に参加されている人たちの人数が目標に達していなくても、その参加の人たちの満足度や意見を考慮してもよいのではと思いました。

4 コロナ禍の吹田市立図書館（令和元年度～令和3年度）

（『令和2年度（2020年度）吹田市立図書館点検・評価報告書』を元に抜粋再編集）

新型コロナウイルスは、令和元年（2019年）12月に中国で最初に確認され、瞬く間に世界中に広がりました。日本においても令和2年（2020年）1月から感染者が確認され始め、4月には緊急事態宣言まで発出される事態となり、吹田市立図書館でも一時、館内への立入りや予約資料の貸出も中止するという、完全休館体制となりました。その後、繰り返し実施された臨時休館中は、予約資料の貸出だけは継続するよう努めました。

（1）図書館施設及びサービス網の整備

令和2年度（2020年度）に中央図書館の耐震補強及び大規模修繕工事を終え、施設のバリアフリー化も実施し、無事リニューアル開館する事ができました。また、岸部地域で健都ライブラリーが開館したことにより、図書館網の整備が完了し、図書館利用不便地域がほぼ解消しました。令和4年度（2022年度）以降には、施設の老朽化や閲覧スペースの狭隘などに課題があった北千里分室の移転・拡充や、同じく閲覧スペースの狭隘に課題があった江坂図書館についても、Park-PFIを導入した再整備計画を予定しています。

（2）利用促進

これまで継続的に行ってきたサービスについては、コロナ禍における臨時休館やサービスの制限が続いたことにより、貸出冊数（前年度比22.6%減）や利用者数（前年度比19.0%減）など多くの項目で目標値を大きく下回りました。

一方で、臨時休館中も予約資料の貸出を継続したことから、予約の受付件数（前年度比3.6%増）などは前年度より増加しました。

広報・情報発信機能の推進については、図書館や資料に関する情報収集の需要の高まりの起因により、メールマガジンの送信件数（前年度6.5%増）が増加しました。その他、図書館ホームページやSNSを活用し、積極的に発信を行ってききましたが、今後は、発信件数等数値だけでなく、その効果を測る指標の在り方、また、新たなツールの活用も含めた発信方法の研究が課題と考えます。

令和3年（2021年度）7月から開始した「すいた電子図書館」サービスは、長引くコロナ禍の中、従来の紙媒体資料に加え、非来館型の新たな生涯学習ツールとして利用されています。

（3）資料と情報の提供

コロナ禍で開催中止が相次いだ講座等の行事については、オンラインや動画配信での実施に迅速に転換することができず、継続した課題となっています。一方、不要不急の外出が抑制される中、子供たちに本と親しんでもらう企画として、令和元年度から令和2年度

にかけて作成、公開した「わいわいブックトーク」の動画は好評を得たため、利用案内、読書啓発の新たな方法として継続する必要があると考えています。

(4) 子ども読書活動支援センター機能の充実

学校連携については、コロナ禍において、小学生の図書館見学は大幅に数値が減りましたが、学校への団体貸出については、ほぼ例年並みの実績がありました。

乳幼児向けサービスについては、ブックスタートのひろば、おひざで絵本については、従来はボランティア・グループ「りんごの木」「こぐま」に依頼して実施していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定員を大幅に減らし、可能な範囲で職員が実施しました。抱っこで絵本講座についても、定員を減らし実施しました。また、対面開催が制限されるなかでも、子供と保護者に絵本の魅力に触れる時間をもってもらえるように、講座内容を Q&A 形式で紹介した動画を制作し公開しました。

講座・講演会の開催については、直接本の魅力に触れる良さを大切にしながらも、感染拡大防止策の徹底と並行した、今後の行事の在り方の検討が課題となりました。

【図書館の自己評価】

コロナ禍における長期に渡るサービス制限下において、情報や資料の提供、行事等の在り方など新たな課題が浮き彫りになりました。それらの課題を整理し、次期図書館基本構想（『(仮称)吹田市立図書館サービス基本計画』）の策定において、変化する社会情勢等に対応できるよう目標値の見直し等、より市民の方に必要とされる図書館サービスの検討を進めていきます。

【図書館協議会の講評】

・新型コロナの影響により、取組が制約され十分な成果が得られなかったのは残念ではありますが、ハード面は計画通りに進められたことは評価されると思います。

・今後は、吹田市のDX推進計画に合わせて、図書館のDXを積極的に推進していただくことを望みます。また、SNSを活用した広報活動に重点を置き、市民の情報拠点としての認知度アップに努めていただきたいと思います。

・全体的にみて、吹田市立図書館のサービスは、高い状態で維持されていると考えています。特に、広域利用の促進や出前講座の実施など、他自治体・機関等との連携について、数値的にも内容的にも成果が上がっていると考えます。

・COVID-19のような感染症の流行は今後も起こりうるので、この間の経験をもとによりよい対応策を考えてほしいです。未経験のため、試行錯誤しながらできるサービスを提供していたと思うが、市民への情報提供の面で、休館については、より慎重にすべきだったのではないかと思います。

・全体的に目標値で考えると厳しい評価になってしまいます。コロナ禍で中止されることもあるので評価以上に頑張っていると思います。

・オンラインについては、これからどんどん増えていくと思います。今後の課題として取り組んでいただきたいと思います。

・図書館が長期にわたり閉鎖されたという経験は、図書館利用者としても初めての事でした。その間は社会への扉が閉められたようで実に心もとなく感じられました。図書館の存在が生活をしていく中でとても大切なものだと思います。

・刻々と変化してゆく社会の中で、図書館の役割も少しずつ変わっていかねばならないと思いますが「基本」を踏まえて頑張っていただきたいと思います。

・このコロナ禍のなかウイルス感染拡大防止のため平常の業務以外の事柄が増え、図書館は大変だったと思います。これらの時期に図書館で起こったことや行われたことについての反省や検証を行い（今後また同じような事態が起きないとも限りません）未来への備えをしていただきたいと思います。

別表 吹田市立図書館基本構想アクションプランの達成状況一覧

* 数値目標の基準年度は平成30年度(2018年度)							
No.	事業名	具体策・方法	実施時期	目標達成の指標			
				項目	目標	結果	達成値
1 地域の情報拠点として、資料・情報をいつでも、どこでも、誰にでも、提供する市民本位のサービス							
(1) 図書館施設及びサービス網の整備							
1	中央図書館の充実	中央図書館の再整備計画の策定を目指し、関係部局との調整を図る	10年	再整備計画の策定	実施	実施	A
2		新・中央図書館建設時に書庫機能の整備を図る	10年	再整備計画の策定	実施	未実施	B
3	利用不便地域の解消	岸部地域への施設整備を行い図書館サービス網の完成を図る	10年	再整備計画の策定	実施	実施	A
4		駐車場所の見直し並びに月2回巡回の実施と貸出方法を補充するシステムの検討	10年	巡回回数	経年比増	H29 190回 H30 195回	A
5	広域利用の促進	北摂地域全体の広域利用システムの検討や大阪市との広域利用	5年	各自治体との話し合いは進んだか	実施	実施	A
(2) 利用促進							
6	年間貸出目標の達成	図書や視聴覚資料およびデータベース等の収集と利用促進で貸出数の増加を図る	10年	貸出点数	数値目標(420万)	360万点	C
7	広報・広告事業の促進	ホームページコンテンツの充実とTwitterやUstreamの利用で情報発信機能の向上を図る	2-3年	コンテンツの更新回数	成果物の発行	563回(Twitter)	A
8		Facebookによる広報誌の発行などで広報活動の充実を図る。	2-3年	コンテンツの更新回数	成果物の発行	452回	A
9		広告事業や寄付金募集などで地域経済の発展に寄与し同時に資料充実を図る	一部	参加・協力企業の数	経年比増	H29 3者 H30 4者	A
10	足を運べない人へのサービス	中央図書館の再整備に合わせて郵送貸出の実施を目指す	10年	郵送システムの構築	実施	未実施	D
11		電算システム更新時に電子図書の導入を行う	5年	ハイブリッド型図書館の実現	実施	実施	A

No.	事業名	具体策・方法	実施時期	目標達成の指標			
				項目	目標	結果	達成値
(3) 資料と情報の提供							
12		おすすめ本リストやパスファインダー等で読書の楽しさや図書館利用の便利さをアピールし貸出増を目指す	2-3年	各種リスト・パスファインダーの発行	成果物の発行	5件	A
13	成人サービス	一般成人向けの講座・講演会の開催や催し等を開催して、自己学習の支援を図る	一部	講座等参加者数	数値目標(1,200)	4442人	A
14		読書会の開催等を通じて新規利用者の獲得と熱心な利用者の確保を目指す	2-3年	年間開催回数	数値目標(2)	2回	A
15	地域資料の収集・保存と活用	郷土・行政資料の収集・保存とデジタル化を進め、リスト化・データベース化をして活用を図る	5年	年1回以上のデータ更新	数値目標(6)	27回	A
16	レファレンス(相談業務)	全館で専用カウンターの運用及びレファレンスデータベースの構築と有効活用	一部	レファレンス受付件数	経年比増	H29 16,167件 H30 15,295件	B
17	行政支援サービス	本庁舎内への連絡窓口等の設置を行い物流の確保とレファレンスの受付で政策立案への支援を行う	10年	相談受付件数	経年比増	H29 17回 H30 18回	A
18		お話し会などの実施で読書活動を支援する	一部	行事参加者数	数値目標(2,800)	15,658人	A
19	児童サービス	お楽しみ会、一日図書館員、その他児童向け行事の実施で図書館利用促進を目指す	一部	行事参加者数			
20		「おめでとう1年生」「もうよんだかな」「市民が選ぶ子どもたちに読ませたい100+5冊」を発行し読書活動を支援する	一部	発行部数	数値目標(13,000)	16,500冊	A
21		児童向けホームページの開設で子どもの読書活動を支援する	5年	ホームページコンテンツの作成	成果物の発行	実施	A
22	ヤングアダルト(YA)サービス	「てくてく」の配布、YAサポーターによる行事の自主企画や直接参加を通じてYA層の利用増と定着を目指す	一部	行事参加人数	経年比増(40)	62人	A

No.	事業名	具体策・方法	実施 時期	目標達成の指標			
				項目	目標	結果	達成度
2 生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにします							
(1) 施設や地域との連携							
23	男女共同参画センター情報ライブラリー・平和祈念資料館との連携	男女共同参画センター情報ライブラリー・平和祈念資料館などとの情報共有を目指す	5年	横断検索システム・蔵書リストの作成	成果物の発行	実施	A
24	児童会館・児童センターとの連携	児童会館・児童センターとの情報や協力関係の充実を目指す	5年	団体貸出冊数、講師派遣回数	経年比増	H29 4回 H30 6回	A
25	博物館との連携	博物館との情報共有を図るとともに市民協働で地域資料アーカイブスの構築を目指す	5年	リストやホームページコンテンツの作成	成果物の発行	実施	A
26	吹田市出前講座の充実と活用	吹田市出前講座の活用を図るとともに公民館などへの講師派遣等を通じて生涯学習推進体制の充実を図る	一部	出前講座の実施件数	数値目標 (6)	13件	A
27	地域との連携	市民参加の図書館活動を目指し利用者懇談会の実施や、自治会への働きかけを通じて地域づくりに貢献する	2-3年	懇談会実施回数	数値目標 (2)	2回	A
(2) 自己実現の援助							
28	ボランティア活動の推進	ボランティア団体によるリサイクル本の有料販売などで自主財源の確保とボランティア活動の活性化を図る	5年	ボランティア総数	数値目標 (1,000)	607人	B
29	学習成果の活用の機会の提供	読書会や講座・講演会から生まれた自主活動の支援等を通じて学習成果の活用場の提供を目指す	5年	毎年活動の場の数を増やす	数値目標 (1)	11回	A
30	各種事業への市民参画	市民の参画で各種事業の企画立案を行う	2-3年	企画数	数値目標 (1)	2回	A
(3) 高齢者・障がい者サービスの充実							
31	視覚障がい者サービス	対面朗読サービスの実施と音訳図書や点字図書の製作	一部	音訳図書貸出回数及び対面朗読実施回数	数値目標 (2,800)	4,747回	A
32	来館困難者へのサービス	本の宅配や郵送貸出ならびに施設訪問を通じて在宅・施設入所者等へのサービス提供を目指す	5年	貸出方法の確立	実施	実施	A
33	聴覚障がい者サービス	手話ボランティアの配置	5年	利用人数	実施	未実施	D
34	障がい児サービス	関連施設や支援学校との連携を図りながら触る絵本やマルチメディアデジターの資料充実を図る	一部	資料の充実	経年比増	H29 11点 H30 13点	A

No.	事業名	具体策・方法	実施時期	目標達成の指標			
				項目	目標	結果	達成値
(4) 特色あるサービス							
35	ビジネス支援サービス	市内企業や関連機関との連携および資料の充実	一部	関連施設との共催事業	数値目標(1)	1回	A
36	多文化サービス	外国語資料の充実や子ども向けの読み聞かせ会などの実施で在日外国人などの支援と相互理解を図る	一部	読み聞かせ等年間行事回数	数値目標(2)	2回	A
37	健康・医療情報サービス	保健・医療機関との連携を図り、資料の充実や健康・医療情報コーナーを設置する	一部	関係機関との年間連携回数	数値目標(2)	2回	A
38	就労・就業支援	JOBナビすいた・JOBカフェすいたとの連携を図り、ハロー！ジョブ・コーナーの設置と資料の充実を図る	一部	関係機関との連携による年間資料リスト作成点数	成果物の発行(1)	1点	A
39	地域経済への貢献	ガンバ大阪との共催事業や広告事業で地域の活性化や地域経済への貢献を目指す	一部	事業数	数値目標(5)	0件 (R2 4件)	D (B)
3 子育て支援や学校との連携を通して、子どもの健やかな成長に役立ちます							
(1) 子ども読書活動支援センター機能の充実							
40	子育て支援サービス	ブックスタート事業の実施とその後の年齢別読み聞かせなどのフォローによる乳幼児向けのサービスの展開	一部	全館のブックスタートのひろばや読み聞かせの参加者数	数値目標(23,000)	20,257人	B
41	学校連携	図書館見学・職業体験授業・学校訪問の他、講師派遣ならびに調べ学習の支援で学校との連携を図る	一部	参加人数	数値目標(2,300)	2,302人	A
42	児童会館・児童センターへの支援	児童会館・児童センターとの連携でいつでもどこでも読書活動ができる環境整備を図る	5年	出前講座等の参加者数	*数値目標 →経年比増	H29 196人 H30 122人	B
43	講座・講演会の開催・後援	児童文学に係る講座・講演会の開催や展示会他を開催して、児童文学の普及と読書活動支援者の育成を図る	一部	講演会等参加者数	数値目標(1,700)	663人	B
44	吹田市出前講座 その他講師派遣	学校図書館や幼稚園・保育園ならびに地域・家庭文庫への講師派遣で読書活動支援者の育成を図る	一部	講座等参加者数	数値目標(430)	582人	A

【実施期間】 一部：一部実施中 2-3年：2~3年 5年：5年以内 10年：概ね10年以内

【目標指標解説】 *No.42は数値目標未設定のため、経年比増として評価。

「数値目標」：数値目標を達成したか

「経年比増」：前年度と比較しての増減

「成果物の発行」：リストの作成、印刷物の発行など、アウトプットした成果物の有無。

【評価の基準】

- A 取組を実施し目標を達成した。または、目標を上回る成果があった。
- B 取組を実施し、目標には達していないが一定の成果をあげた。
- C 取組を実施したが、十分な成果をあげることができなかった。
- D 実施できていない。課題の整理、計画の見直しが必要である。

資料1 吹田市立図書館基本構想アクションプラン

サービス計画の 三つの基本目標	対応 箇所 番号	課題	事業名	具体策・方法	実施時期	目標達成の指標			参考指標
						項目		目標	
						実施	実績		
1. 市民・地域と 連携し、資料・情報と ともに、提供し、 市民生活のサービス 向上を図る。	1.3-1-(2)	中央館の充実	中央館の再整備計画の策定を目指し、関係部局との調整を図る	再整備計画の策定	概ね10年以内	合計延べ床面積	42万	合計延べ床面積	
	1.3-2-(1)	利用不便地域の解消	新・中央館建設時に連携機能の整備を図る	連携機能の整備	概ね10年以内	連携機能の整備	2	連携機能の整備	
	2.3-5-(6)	図書情報施設及び サービス網の整備	県部地域への施設整備を行い図書館サービス網の完成を図る	県部地域への施設整備	概ね10年以内	施設整備	図書情報施設	2	
	2.3-4-(4)	地域利用の促進	駐車場の見直し並びに月2回巡回の乗換と貸出方法を充実させるシステムの検討	駐車場の見直し	概ね10年以内	見直し	駐車場の増設	2	
	2.3-4-(2)	年間貸出目標の達成	北摂地域全体の広域利用システムの検討や大阪市内との広域利用	北摂地域全体の広域利用	5年以内	広域利用している吹田市市民の数の増加	42万	貸出冊数	
	2.3-5-(7)	広報・広告事業の促進	図書館や読書奨励会およびユーザー・タレント等の取組と利用促進で貸出量の増進を図る	図書館や読書奨励会およびユーザー・タレント等の取組	概ね10年以内	貸出冊数	42万	貸出冊数	
	2.3-4-(2)	利用促進	ホームページの充実とTwitterやInstagramの利用で情報発信機能の向上を図る	ホームページの充実	2～3年以内	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
	2.3-4-(2)	利用促進	Facebookによる読書読者の募集など地域経済の発展に寄与し読書活動を促進する	Facebookによる読書読者の募集	2～3年以内	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
	2.3-4-(2)	利用促進	広告事業や寄附金募集など地域経済の発展に寄与し読書活動を促進する	広告事業や寄附金募集	一部実施中	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
	2.3-5-(7)	足踏まないサービス	中央図書館の閉館時に合わせて郵送貸出の充実を目指す	中央図書館の閉館時に合わせて郵送貸出の充実	概ね10年以内	郵送貸出冊数	2,000	郵送貸出冊数	
	2.3-5-(7)	足踏まないサービス	電算システム更新時に電子図書の導入を行う	電算システム更新時に電子図書の導入	5年以内	電子図書の導入冊数	2,000	電子図書の導入冊数	
	2. 生涯学習を支援 し、仕事や暮らし を豊かにします	2.3-5-(1)	成人サービス	おすすり本リストやe-リーダー等で読書の楽しさや図書館利用の便利さをアピールし貸出増を目指す	おすすり本リストやe-リーダー等の取組	2～3年以内	成書物の発行	2,000	成書物の発行
2.3-5-(1)		成人サービス	一般成人向けの講座・講演会の開催や親子等を開催して、自己学習の支援を図る	一般成人向けの講座・講演会の開催	一部実施中	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
2.3-5-(1)		成人サービス	読書会を開催して新規利用者の獲得と既存の利用者の維持を図る	読書会の開催	2～3年以内	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
2.3-4-(6)		資料と情報の提供	国土・行政資料の収集・保存とデジタル化を進め、リスト化・データベース化し活用を図る	国土・行政資料の収集・保存とデジタル化	5年以内	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
2.3-4-(6)		資料と情報の提供	顔文字専用カウンターでの運用及びレファレンスデータベースの構築と有効活用	顔文字専用カウンターでの運用	一部実施中	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
2.3-4-(6)		資料と情報の提供	本庁舎内への連絡窓口等の設置を行い、物理的障壁の解消とレファレンスの取組を行う	本庁舎内への連絡窓口等の設置	概ね10年以内	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
2.3-5-(2)		成人サービス	お話し会、一日図書館員、その地域児童向け行事の実施で図書館利用促進を目指す	お話し会、一日図書館員、その地域児童向け行事の実施	一部実施中	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
2.3-5-(2)		成人サービス	「おめでとう！1年生」もうよみがたかな！市民が選ぶ子どもたちに読ませたい100冊を発行し読書活動を支援する	「おめでとう！1年生」もうよみがたかな！市民が選ぶ子どもたちに読ませたい100冊を発行	一部実施中	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
2.3-5-(2)		成人サービス	児童向け「お話し会」の開催で子どもたちの読書活動を支援する	児童向け「お話し会」の開催	一部実施中	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
2.3-5-(3)		成人サービス	児童向け「お話し会」の開催で子どもたちの読書活動を支援する	児童向け「お話し会」の開催	一部実施中	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
2.3-4-(4)		読書や地域との連携	男女共同参画センター情報ライブラリー、平和記念資料館などの情報共有を目指す	男女共同参画センター情報ライブラリー、平和記念資料館などの情報共有	5年以内	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
3. 子ども読書活動 支援センター機能 の充実		2.3-4-(4)	読書や地域との連携	博物館との情報共有を図るとともに市民協働で地域資料アーカイブスの構築を目指す	博物館との情報共有	5年以内	成書物の発行	2,000	成書物の発行
	2.3-4-(4)	読書や地域との連携	吹田駅前図書館の活用を図るとともに公民館などへの講師派遣等を通じて生涯学習推進体制の充実を図る	吹田駅前図書館の活用	5年以内	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
	2.3-4-(6)	自己実現の援助	市民参加の図書館活動の推進や、自治会への働きかけを通じて地域づくりに貢献する	市民参加の図書館活動の推進	2～3年以内	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
	2.3-5-(1)	自己実現の援助	読書会や講座・講演会から生まれた自主活動の推進等を通じて学習成果の活用を図る	読書会や講座・講演会から生まれた自主活動の推進	5年以内	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
	2.3-5-(1)	自己実現の援助	市民の企画で各種事業の企画立案を行う	市民の企画で各種事業の企画立案	2～3年以内	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
	2.3-5-(1)	自己実現の援助	市民の企画で各種事業の企画立案を行う	市民の企画で各種事業の企画立案	2～3年以内	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
	2.3-5-(4)	高年齢者、障がい者 サービス	市内高齢者へのサービス	市内高齢者へのサービス	一部実施中	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
	2.3-5-(4)	高年齢者、障がい者 サービス	障がい児・若年者へのサービス	障がい児・若年者へのサービス	一部実施中	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
	2.3-5-(5)	高年齢者、障がい者 サービス	多文化サービス	多文化サービス	一部実施中	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
	2.3-5-(5)	高年齢者、障がい者 サービス	健康・医療情報サービス	健康・医療情報サービス	一部実施中	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
	2.3-5-(5)	高年齢者、障がい者 サービス	就業・就業支援	就業・就業支援	一部実施中	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
	2.3-5-(5)	高年齢者、障がい者 サービス	地域経済への貢献	地域経済への貢献	一部実施中	成書物の発行	2,000	成書物の発行	
4. 子ども読書活動 支援センター機能 の充実	2.3-5-(2)	子ども読書活動 支援センター機能 の充実	ブックスタート事業の実施とその後の年別読み聞かせなどのフォローアップによる早期読者の育成	ブックスタート事業の実施	一部実施中	ブックスタート本の配布冊数	23,000	ブックスタート本の配布冊数	
	2.3-5-(2)	子ども読書活動 支援センター機能 の充実	図書館・職業体験・学校訪問の他、講師派遣ならびに読書活動の推進を図る	図書館・職業体験・学校訪問の他、講師派遣ならびに読書活動の推進	一部実施中	ブックスタート本の配布冊数	2,000	ブックスタート本の配布冊数	
	2.3-5-(2)	子ども読書活動 支援センター機能 の充実	児童館・児童センターへの支援	児童館・児童センターへの支援	5年以内	ブックスタート本の配布冊数	2,000	ブックスタート本の配布冊数	
	2.3-5-(2)	子ども読書活動 支援センター機能 の充実	読書・講演会の開催・後援	読書・講演会の開催・後援	一部実施中	ブックスタート本の配布冊数	2,000	ブックスタート本の配布冊数	
	2.3-5-(2)	子ども読書活動 支援センター機能 の充実	学校図書館その他講師派遣	学校図書館その他講師派遣	一部実施中	ブックスタート本の配布冊数	2,000	ブックスタート本の配布冊数	
	2.3-5-(2)	子ども読書活動 支援センター機能 の充実	学校図書館その他講師派遣	学校図書館その他講師派遣	一部実施中	ブックスタート本の配布冊数	2,000	ブックスタート本の配布冊数	
	2.3-5-(2)	子ども読書活動 支援センター機能 の充実	学校図書館その他講師派遣	学校図書館その他講師派遣	一部実施中	ブックスタート本の配布冊数	2,000	ブックスタート本の配布冊数	
	2.3-5-(2)	子ども読書活動 支援センター機能 の充実	学校図書館その他講師派遣	学校図書館その他講師派遣	一部実施中	ブックスタート本の配布冊数	2,000	ブックスタート本の配布冊数	
	2.3-5-(2)	子ども読書活動 支援センター機能 の充実	学校図書館その他講師派遣	学校図書館その他講師派遣	一部実施中	ブックスタート本の配布冊数	2,000	ブックスタート本の配布冊数	
	2.3-5-(2)	子ども読書活動 支援センター機能 の充実	学校図書館その他講師派遣	学校図書館その他講師派遣	一部実施中	ブックスタート本の配布冊数	2,000	ブックスタート本の配布冊数	
	2.3-5-(2)	子ども読書活動 支援センター機能 の充実	学校図書館その他講師派遣	学校図書館その他講師派遣	一部実施中	ブックスタート本の配布冊数	2,000	ブックスタート本の配布冊数	
	2.3-5-(2)	子ども読書活動 支援センター機能 の充実	学校図書館その他講師派遣	学校図書館その他講師派遣	一部実施中	ブックスタート本の配布冊数	2,000	ブックスタート本の配布冊数	

資料2 10年間（平成23年度～令和2年度）の統計数値の推移とサービス指標

【10年間の統計数値の推移】

区分	平成23年度 (2011)	平成24年度 (2012)	平成25年度 (2013)	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)
①人口（人）	354,053	356,768	360,007	362,899	367,510	369,522
②個人貸出点数（点）	3,200,360	3,354,672	3,483,440	3,497,140	3,494,668	3,587,079
②-1 うち図書	(2,929,286)	(3,052,234)	(3,157,437)	(3,202,336)	(3,228,809)	(3,288,023)
③団体（固定館）貸出点数（点）	-	-	24,382	21,134	20,820	25,517
④団体（自動車文庫）貸出点数（点）※注1	25,028	24,975	26,527	27,539	27,706	27,576
⑤蔵書冊数（冊）	861,345	931,311	974,457	1,003,760	1,024,560	1,042,713
⑥視聴覚資料所蔵点数（点）	50,459	62,229	63,226	64,084	64,771	65,602
⑦年間受入冊数（冊） ※図書のみ	58,959	88,932	49,232	45,570	40,413	39,912
⑧登録者数（人）	109,037	115,189	116,664	117,458	119,287	116,592
⑧-1 うち市内の登録者数（人）	(104,385)	(109,443)	(110,608)	(110,836)	(111,619)	(108,879)
⑨利用者数（人）	69,536	72,041	72,503	72,131	72,832	71,604
⑨-1 うち市内の利用者数（人）	(67,311)	(69,309)	(69,517)	(68,947)	(69,093)	(68,030)
⑩延利用者数（人）	823,228	856,217	890,337	889,453	880,096	929,962
⑪来館者数（人） ※注2	-	-	-	-	-	1,992,476
⑫図書館費決算（千円）	985,203	1,123,098	1,115,521	1,136,251	1,156,597	1,120,627
⑫-1 うち人件費（千円）	(532,830)	(526,504)	(495,514)	(496,231)	(497,475)	(465,848)
⑫-2 うち資料費（千円）	(110,214)	(88,160)	(87,805)	(80,642)	(80,722)	(81,494)
2-3 うち図書費（千円）	(92,617)	(69,200)	(68,555)	(61,773)	(61,801)	(62,754)
2-4 うち視聴覚資料費（千円）	(5,998)	(5,879)	(5,983)	(5,965)	(5,998)	(5,996)
2-5 うち新聞・雑誌、 その他資料費（千円）	(11,599)	(13,080)	(13,267)	(12,905)	(12,923)	(12,743)
⑬社会教育費決算（千円）	2,776,458	2,854,987	2,623,002	2,543,204	2,522,650	2,681,949
⑭教育費決算（千円）	13,545,021	14,938,645	13,503,228	16,120,585	14,243,193	13,511,439
⑮一般会計歳出決算（千円）	107,055,078	114,772,214	105,334,455	115,796,335	121,742,821	121,064,182
⑯職員数（人）	86	82	80	76	75	73
⑯-1 うち常勤職員数（人）	(57)	(54)	(52)	(50)	(50)	(47)
⑯-2 うち非常勤職員数（人）	(29)	(28)	(28)	(26)	(25)	(26)
⑯-3 うち司書職（人）	(83)	(79)	(78)	(74)	(73)	(71)
⑰予約件数（件）	753,964	810,245	861,597	908,158	918,484	1,027,292
市外図書館相互利用 借受点数（点）	7,186	7,431	8,002	7,865	8,500	8,104
市外図書館相互利用 貸出点数（点）	3,084	3,080	2,995	3,088	2,871	3,055
ホームページ蔵書検索件数（件）	2,797,880	3,430,831	4,042,650	5,053,134	4,640,158	6,008,077
ブックスタート配布率（％）	83.1	83.4	80.0	83.0	85.4	85.1
ボランティア総数（人）	545	555	550	531	555	569
録音図書貸出数（点）	2,435	1,784	1,922	2,780	3,284	3,368
録音図書所蔵数（点）※注3	3,005	3,156	3,289	3,471	3,510	3,605
外国語資料所蔵数（冊）	4,721	5,486	5,754	6,043	5,342	5,559

※注1：④自動車文庫による市内の団体（学校・高齢者施設など）への貸出点数。

※注2：BDSゲートによる人数。BM・北千里・山田・及び中央（臨時窓口令和元年4月～12月）は延利用者数の数値を採用。H28年度より計上。

※注3：テープ図書とデジター図書のタイトル数

※⑫～⑯は百の位を四捨五入している為、決算報告書と一部合致せず。

2012年9月
千里図書館移転・供用開始
2013年1月
千里丘図書館供用開始

2014年7月 大阪市との広域利

2015年6月摂津市との
広域利用開始
2016年2月 IC対応機
器導入

※全て各年度末現在。

区分	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	5年比 H23-R2 (増減率) %	5年比 H28-R2 (増減率) %	10年比 H23-R2 (増減率) %
①人口 (人)	370,072	371,030	373,978	376,944	3.8	2.0	6.5
②個人貸出点数 (点)	3,549,724	3,542,107	3,238,042	2,504,847	9.2	-30.2	-21.7
②-1 うち図書	(3,273,180)	(3,282,323)	(3,004,106)	(2,341,550)	10.2	-28.8	-20.1
③団体 (固定館) 貸出点数 (点)	28,982	34,341	29,242	24,724	-	-3.1	-
④団体 (自動車文庫) 貸出点数 (点) ※注1	27,954	28,184	27,027	29,852	10.7	8.3	19.3
⑤蔵書冊数 (冊)	1,056,096	1,069,503	1,078,517	1,138,249	18.9	9.2	32.1
⑥視聴覚資料所蔵点数 (点)	66,465	67,264	67,931	73,361	28.4	11.8	45.4
⑦年間受入冊数 (冊) ※図書のみ	40,720	40,842	36,311	83,816	-31.5	110.0	42.2
⑧登録者数 (人)	113,334	112,253	108,646	104,313	9.4	-10.5	-4.3
⑧-1 うち市内の登録者数 (人)	(104,964)	(103,468)	(99,709)	(95,750)	6.9	-12.1	-8.3
⑨利用者数 (人)	70,086	69,248	64,837	52,537	4.7	-26.6	-24.4
⑨-1 うち市内の利用者数 (人)	(66,118)	(65,127)	(60,895)	(49,371)	2.6	-27.4	-26.7
⑩延利用者数 (人)	919,121	921,866	854,381	652,074	6.9	-29.9	-20.8
⑪来館者数 (人) ※注2	1,958,047	1,868,375	1,599,507	1,089,679	-	-45.3	-
⑫図書館費決算 (千円)	1,125,697	1,144,403	1,188,566	1,887,194	17.4	68.4	91.6
⑫-1 うち人件費 (千円)	(447,707)	(458,254)	(456,372)	(486,381)	-6.6	4.4	-8.7
⑫-2 うち資料費 (千円)	(81,355)	(81,699)	(73,017)	(82,346)	-26.8	1.0	-25.3
2-3 うち図書費 (千円)	(62,750)	(62,755)	(55,911)	(56,442)	-33.3	-10.1	-39.1
2-4 うち視聴覚資料費 (千円)	(5,994)	(5,998)	(5,204)	(13,586)	0.0	126.6	126.5
2-5 うち新聞・雑誌、 その他資料費 (千円)	(12,611)	(12,945)	(11,902)	(12,317)	11.4	-3.3	6.2
⑬社会教育費決算 (千円)	2,615,374	2,933,356	3,045,126	4,201,972	-9.1	56.7	51.3
⑭教育費決算 (千円)	14,745,345	15,145,433	15,815,288	20,207,599	5.2	49.6	49.2
⑮一般会計歳出決算 (千円)	123,458,245	126,932,263	135,682,334	180,719,720	13.7	49.3	68.8
⑯職員数 (人)	72	74	74	79	-12.8	8.2	-8.1
⑯-1 うち常勤職員数 (人)	(48)	(48)	(48)	(52)	-12.3	10.6	-8.8
⑯-2 うち非常勤職員数 (人)	(24)	(26)	(26)	(27)	-13.8	3.8	-6.9
⑯-3 うち司書職 (人)	(70)	(71)	(71)	(75)	-12.0	5.6	-9.6
⑰予約件数 (件)	1,049,127	1,095,730	1,091,150	1,130,473	21.8	10.0	49.9
市外図書館相互利用 借受点数 (点)	7,206	7,335	9,358	6,816	18.3	-15.9	-5.1
市外図書館相互利用 貸出点数 (点)	3,116	3,097	2,506	2,543	-6.9	-16.8	-17.5
ホームページ蔵書検索件数 (件)	6,441,997	6,424,185	6,403,399	6,914,676	65.8	15.1	147.1
ブックスタート配布率 (%)	81.0	80.0	76.2	75.7	2.8	-11.0	-8.9
ボランティア総数 (人)	575	607	619	592	1.8	4.0	8.6
録音図書貸出数 (点)	3,843	3,995	3,423	3,332	34.9	-1.1	36.8
録音図書所蔵数 (点) ※注3	3,747	3,817	3,924	4,025	16.8	11.7	33.9
外国語資料所蔵数 (冊)	5,743	5,762	5,900	6,015	13.2	8.2	27.4

2017年7月 北摂7市3町での広域
利用開始

2019年4月～耐震補強工事及び大規模改修
のため、中央図書館長期休館

新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館
(2020年4月～5月、12月～2021年3月)
2020年11月吹田市立健都ライブラリー供用開始
2021年1月 中央図書館リニューアルオープン

【10年間のサービス指標の推移】

区分	平成23年度 (2011)	平成24年度 (2012)	平成25年度 (2013)	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	5年比 H23-27 (増減率) %	5年比 H28-R2 (増減率) %	10年比 H23-R2 (増減率) %
1.市内在住登録率 (%)	29.48	30.68	30.72	30.54	30.37	29.47	28.36	27.89	26.66	25.4	3.0	-13.8	-13.8
2.市民一人当たりの貸出点数	9.04	9.4	9.68	9.64	9.51	9.71	9.59	9.55	8.66	6.65	5.2	-31.5	-26.4
2-1.うち図書	(8.27)	(8.56)	(8.77)	(8.82)	(8.79)	(8.9)	(8.85)	(8.85)	(8.03)	(6.21)	6.3	-30.2	-24.9
3.登録者一人当たりの貸出点数	29.35	29.12	29.86	29.77	29.3	30.77	31.32	31.56	29.8	24.01	-0.2	-22.0	-18.2
3-1.うち図書	(26.87)	(26.5)	(27.06)	(27.26)	(27.07)	(28.2)	(28.88)	(29.24)	(27.65)	(22.45)	0.7	-20.4	-16.4
4.利用者一人当たりの貸出点数	46.02	46.57	48.04	48.48	47.98	50.1	50.65	51.15	49.94	47.68	4.3	-4.8	3.6
4-1.うち図書	(42.13)	(42.37)	(43.55)	(44.4)	(44.33)	(45.92)	(46.7)	(47.4)	(46.33)	(44.57)	5.2	-2.9	5.8
5.市民一人当たりの蔵書数 (冊)	2.43	2.61	2.71	2.77	2.79	2.82	2.85	2.88	2.88	2.88	14.8	7.1	24.3
6.蔵書回転率	3.4	3.28	3.24	3.19	3.15	3.15	3.1	3.07	2.79	2.06	-7.4	-34.6	-39.4
7.蔵書新鮮度	0.07	0.1	0.05	0.05	0.04	0.04	0.04	0.03	0.07	0.07	-42.9	75.0	0.0
8.蔵書更新率 (%)	9.12	11.59	6.48	6.16	5.86	5.92	6.44	6.38	5.9	9.48	-35.7	60.1	3.9
9.開架資料更新率 (%)	11.74	16.16	8.64	7.8	6.83	6.69	6.81	6.74	5.99	12.7	-41.8	89.8	8.2
10.一点当たりの貸出コスト (円)	305	332	316	320	326	308	312	317	361	737	6.9	139.3	141.6
11.市民一人当たりの図書費 (円)	262	194	190	170	168	170	170	169	150	150	-35.9	-11.8	-42.7
12.市民一人当たりの資料費 (円)	311	247	244	222	220	221	220	220	195	218	-29.3	-1.4	-29.9
13.市民一人当たりの図書館費 (円)	2,783	3,148	3,099	3,131	3,147	3,033	3,042	3,084	3,178	5,007	13.1	65.1	79.9
14.図書館費/社会教育費 (%)	35.48	39.34	42.53	44.68	45.85	41.78	43.04	39.01	39.03	44.91	29.2	7.5	26.6
15.図書館費/教育費 (%)	7.27	7.51	8.26	7.05	8.12	8.29	7.63	7.56	7.52	9.34	11.7	12.7	28.5
16.図書館費/一般会計歳出 (%)	0.92	0.98	1.06	0.98	0.95	0.93	0.91	0.9	0.88	1.04	3.3	11.8	13.0
17.司書率 (%)	96.5	96.3	97.5	97.4	97.3	97.3	97.2	95.9	95.9	94.9	0.8	-2.5	-1.7

6.蔵書回転率...一冊の蔵書が、当該年度内に平均何回貸し出されたかを示す。

7.蔵書新鮮度...蔵書に占める新規受入資料比。どれだけ蔵書が新しくなっただかを示す。

8.蔵書更新率...除籍された資料も含めて、蔵書に占める更新された割合を示す。

9.開架資料更新率...蔵書の内、開架に占める新規受入資料比。

図書館語句解説

Web アクセシビリティ

高齢者や障がい者など心身の機能に制約のある人でも、年齢的・身体的条件に関わらず、Web（ウェブ）で提供されている情報にアクセスし利用できること。

江坂ロビーフェスタ

地域有志からなる「技芸精舎」のプロデュースにより、江坂図書館で、毎月第3土曜日（8月と2月を除く）に開催してきた、音楽やお話し（語り）などの催し物。（令和3年（2021年）11月より「江坂アートさろん」に改称）

SNS（エスエヌエス）

Social Networking Service（ソーシャルネットワーキングサービス）の略。インターネット上のコミュニケーションを促進する登録制のサービス。共通の趣味や関心を持つ人が集まり、相互に情報発信等を行うことができる。図書館では「Facebook（フェイスブック）」と「Twitter（ツイッター）」で公式アカウントを開設している。それぞれの特性に合わせ行事の報告や本の紹介などに活用している。

LLブック（エルエルブック）

LLはスウェーデン語の「Lättläst」の略語で「やさしく読める」という意味。知的障がいや発達障がいなどの、通常の活字図書の利用が困難な人にも理解しやすいように工夫された本。やさしくわかりやすい言葉や短い単語、イラストや写真を用いて表現される。

LL版図書館利用案内

大きな活字、画像やピクトグラムなど、わかりやすい表現を使った図書館の利用案内。ホームページ上でも公開している。

おひざで絵本

ボランティアグループ「こぐま」の協力のもと、2・3歳の幼児とその保護者を対象に、絵本の読み聞かせや手遊び、わらべうたの実演を行っている。（市職員が実施する回もあり）

親子で絵本とわらべうた

9か月から1歳の乳幼児と保護者、2・3歳の幼児と保護者対象の読み聞かせとわらべうたを楽しむ連続講座。中央図書館の主催事業。

親子わくわく読書ひろば

就学前の乳幼児と保護者が千里図書館多目的室に集まり、周囲を気にせずに絵本や紙芝居等を楽しむ行事・イベント。（開催時間は2時間）を過ごしてもらうもの。

音声デイジー（デイジー図書）

国際規格である DAISY フォーマットによりデジタル録音された音声図書。パソコンで音声データを録音し、編集作業を施して、活字本を読むような形で耳からの読書ができるようにした音訳図書。専用の再生機（ブレストーク）や再生ソフトで聞くことができ、本と同じように見出しやページで呼び出したり、飛ばし読みができる

開業率

一定期間に新規に開業した事業所・企業の数が同期間の総事業所・企業数全体に占める割合。

公衆無線 LAN

無線を利用してデータ通信を行う LAN システムを利用して、複数の人（公衆）が利用する場において、インターネットへの接続やデータのやりとりが行えるネットワーク。Wi-Fi。

国立国会図書館レファレンス協同データベース

国立国会図書館が全国の図書館や調査機関などと協同で構築する調べ物のためのデータベース。参加館の質問・回答の事例、調べ方など、調査に役立つ情報を公開している。吹田市立図書館は平成 17 年（2005 年）から参加している。

子ども読書活動支援センター

学校、幼稚園、保育園、児童会館、児童センターとの連携を進めるため、令和 3 年度（2021 年度）に中央図書館に担当を設置した。子供の読書活動に関わる団体などへの支援を包括的に行っている。

子どもと本のまつり

子供に本を読む楽しさや喜びを知ってもらうために、毎年 4 月 23 日（子ども読書の日）から約 1 か月間、講演会や工作教室、おはなし会などの子供向け行事を全館で行っている。家庭文庫の主宰者や子供の本の研究を続ける市民で構成される「吹田市子どもの本連絡会」との共催。令和 3 年度で第 38 回を迎えた。

ごりまる学校訪問

『吹田市子ども読書活動推進計画 平成 19 年(2007 年)』に基づき開始した学校連携事業のひとつ。平成 25 年度（2013 年度）から学期ごとの申し込みにより、自動車文庫（ゆめぶんこ）が小・中学校を訪問し、車両見学や、司書による読み聞かせなどを行った。自動車文庫の事業が終了したことで本事業についても終了。「ごりまる」は自動車文庫（ゆめぶんこ）車両に描かれていた国松エリカ作の絵本『はっけよいごりまる』のキャラクター名。

ごりまる便

自動車文庫（ゆめぶんこ）を利用して小・中学校に団体貸出の図書を配達、回収をする事業。平成 25 年度（2013 年度）から実施し、自動車文庫の事業が終了したことで本事業についても終了。

コンテンツ

元々は中身、内容、書籍の目次を意味する英単語だったが、テレビや映画、インターネットなど情報サービスで伝達される「情報の内容」という意味で広く使われている。ホームページにおいてはその内容、項目などを指す。

サピエ（視覚障害者情報総合ネットワーク）図書館

全国の点字図書館や公共図書館が製作または所蔵する本の点字データや音声データを集積し、視覚障がい者などがパソコンや携帯電話でダウンロードすることにより利用できるようになっている。また全国の図書館が所蔵する約 66 万タイトル以上の資料のデータを利用することができる。

さわる絵本

視覚障がい児などが触覚で鑑賞できるように、絵本を原本にして、フェルトや皮、毛糸などさまざまな素材を使って絵の部分を半立体的に表現して製作された絵本。

市民が選ぶ子どもと読みたい 100+5 冊の本

子どもたちの読書活動を推進するための取組として平成 21 年（2009 年）7 月に『市民が選ぶ子どもたちに読ませたい 100+5 冊の本』を発行。発行から 10 年以上が経過したことを受けて、令和 3 年（2021 年）10 月に『市民が選ぶ子どもと読みたい 100+5 冊の本』の名称に変更し改訂版を発行。

市民作品展示

千里丘図書館において、市民の作品を 2 か月ごとに募集して館内に展示し、来館者に楽しんでいただいている企画。平成 28 年度（2016 年度）より実施。

集密書庫

限られた書庫の収納能力を高めるため、手動又は電動でスチール製の書架列をレール上で可動させることにより、通路スペースを縮小させた書架を備えた書庫。

生涯学習出前講座

吹田市の仕事やこれから取り組もうとしていることを、市職員が直接出向いて話す事業。吹田市立図書館では「親子で絵本とわらべうた」「図書館使いこなし講座」など 9 つのメニューを提供。

商用データベース

辞典や新聞記事などの情報について使用料

を支払うことで、パソコンなどからオンラインで閲覧できるようにしたもの。図書館が契約し、利用者は館内の端末から無料で閲覧できる。現在、吹田市立図書館では、全館でヨミダス歴史館、毎索、朝日新聞蔵Ⅱビジュアル、ジャパンナレッジ Lib、産経新聞データベース、DI-Law（法律データベース）、医中誌 Web が閲覧できる。商業データベース。

除架計画

除架とは書架の鮮度及び収納容量を保つために、定められた除籍基準に則って不要資料を選択すること。資料の利用度や蔵書構成、今後の受入予定冊数などから、除架の内容や冊数、時期などについて検討する。

吹田子どもの本連絡会

家庭文庫の主宰者や子供の本の研究を続ける市民で構成された市民団体。

積層書庫

鋼鉄の支柱を用いて書架と鉄板の床を積み重ねた構造の書架を備えた閉架式書庫。床から天井までの 1 層分の高さを人の手が届く高さに抑え、建築物の柱や梁が書庫内に出ないため、全体的に収納効率が高い。中央図書館の閉架部分 3 階から 4 階にかけて 3 層ある。

相互貸借

同一機関に所属しない図書館同士が所蔵している資料を貸し借りすること。ある資料が図書館に所蔵がない場合、所蔵している図書館に現物貸借の依頼をし、協力を求める。図書館相互貸借。

抱っこで絵本講座

1歳児とその保護者を対象とした絵本の読み聞かせについて学ぶ3回連続の講座。読み聞かせの意義や年齢に合った絵本の選び方、読み聞かせの方法を司書が解説する。実際に親子で絵本を読み、読むスピードやページをめくるタイミングなどを具体的に学ぶ。

地域・家庭文庫

市民が絵本や児童書を集め、自宅や団地の集会所などを地域の子供たちに開放して、絵本や児童書の貸出や子供向けの催しなどをする活動のこと。昭和60年代にピークを迎え、吹田市では一時期16か所が活動していたが、地域図書館の増設とともに減っており、現在は4つの文庫がある。

ちょっと書庫まで

資料を保管している書庫を、利用者に開放する催し。中央図書館、千里山・佐井寺図書館及び千里丘図書館で実施。

『てくてく』

12歳から18歳までのYA世代を対象に、最近1年間ぐらいに出版された本の中から読み物を中心に、司書が本を選び紹介文をつけて発行した冊子。昭和60年(1985年)創刊。『もうよんだかな?』と合わせて、夏休み文庫と言う。

読書貯金(『すいぼんつうちょう』)

小学生を対象に読書振興のために配布している読んだ本の感想などを記録できる小冊子。1冊いっぱいになると「にんていしょう」に貼るシールを配布する。「すいぼん」は図書館のSNSのアイコンキャラクター

のこと。

図書館講座じゅずつなぎ

平成16年度(2004年)から毎年10月から11月にかけて大人向け講演会として全館で行っている。じゅずのように連続して次々に各館で実施することから名づけられた。吹田市にゆかりの講師や、文化についてのテーマを設定し、各館で趣向をこらし開催している。

図書館フレンズ

平成24年(2012年)から個人登録のボランティアとして図書館が募集し、活動しているグループの名前。当初、前年度の3月に募集していたが、平成31年度(2019年度)より通年募集を開始。図書館の壁面装飾、行事の補助、データ入力等様々な活動の中から、都合の良い時間にできることを選び活動する市民協働事業の一種。

図書館フロア委員会

山田駅前図書館の利用者を代表して、同館が入居する吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館運営協議会へ、意見・要望を提言する委員会。図書館の主催事業などについて協議する。

Park-PFI(パーク ピーエフアイ)

飲食店等の「公募対象公園施設」の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の広場等「特定公園施設」の整備・改修などを一体的に行う者を、公募により選定する制度。平成29年(2017年)都市公園法改正により創設。令和4年度(2022年)以降、江坂公園にPark-PFIが導入され、公園の再整備が行われることから、江坂図

書館においても一体的な魅力向上をはかるため再整備を行う。

パスファインダー

ある特定のテーマについて、資料や情報を探するための手順を簡単にまとめたもの。吹田市立図書館を使って調べものをするのを念頭に置いて、現在、大人向け3種、児童向け2種のパスファインダーがある。

ピクトグラム

絵文字、絵ことば、図記号の総称。シンプルな構図と対症的な色を用い、で誰にでもわかりやすく伝えるための絵文字。

ひとりのびのび読書タイム

子育て青少年拠点夢つながり未来館内の山田駅前図書館とのびのび子育てプラザとの連携事業。のびのび子育てプラザが子供を保育している間に、保護者は山田駅前図書館でゆっくり本を読んだり、借りる本を選んだりする。(約100分間)子育て中の保護者への支援と読書活動の推進を目的としている。

ビブリオバトル

おすすめ本の魅力を紹介しあい、その中から一番読んでみたいと思った本を観客が投票する知的書評合戦。図書館では平成24年度(2012年度)に山田駅前図書館で初めて実施し、その後、中央図書館で実施した。

非来館型サービス

市民などが図書館に来館せずに利用するサービス。インターネットを介して利用するサービスも含む。電子図書サービス、郵送貸出、レファレンス(電話、郵便、ファクシ

ミリ、Webサイト)、Webでの新規利用登録、SNSでの情報発信、オンラインでの対面朗読など。⇨来館型サービス*

ブックスタート事業

絵本を介して赤ちゃん和家人の絆を深め、心豊かな成長を支援することを目的とする活動。イギリスのバーミンガムで1992年に始まった。吹田市では図書館と保健所が協力して実施。子ども4か月児健康診査等の案内時にお知らせを同封し、図書館に来館した対象者に絵本を1冊贈っている。

ブックスタートのひろば

ボランティアグループ「りんごの木」の協力のもと、0・1歳の乳幼児とその保護者を対象に、絵本の読み聞かせや手遊び・わらべうたの実演を行っている。

ブックトーク

特定のテーマに関して集めた本を、解説を加えながら紹介するもの。

ほんのひろば

西山田地区公民館と山田駅前図書館山田分室との連携事業。司書が公民館でブックトークと読み聞かせなどを定期的に行っている。

マルチメディアデイズ

音声と一緒に、文字や画像が表示されるデジタル図書。読み上げている場所の色が変わるハイライト機能や、スピード、文字の色や大きさ、背景の色などを変える機能がある。

耳マーク

聞こえが不自由なことを表すと同時に、聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を促すマーク。

『もうよんだかな?』

4・5歳から小学校高学年までを対象に、最近1年間ぐらいに出版された本の中から読み物を中心に、司書が本を選び紹介文をつけて発行した冊子。昭和50年(1975年)創刊。『てくてく』と合わせて、夏休み文庫と言う。

「もうよんだかな?」セット

『もうよんだかな?』と、『てくてく』に掲載された図書を学年別に40冊のセットにしたもの。各学年に1学期間の貸出を行っている。

Ustream (ユーストリーム)

インターネットを利用したライブ動画の配信サービス。パソコンやスマートフォンを使って誰でもライブ動画が配信でき、また誰でも視聴することができる。日本では平成22年(2010年)にサービスが開始された。

ユニバーサル絵本

透明フィルムを使って、さわってわかるように、点字や形や色が表現された市販絵本。視覚障がいがある子もない子も楽しむことができる。

ユニバーサルデザイン

文化・言語・国籍や年齢・性別・能力などの違いにかかわらず、すべての人が利用できることを目指した設計。

「よむ・きくへや」と「やすむへや」

「よむ・きくへや」は声や音を出して読書を楽しむための部屋。「やすむへや」は刺激を避けて静かに過ごせる部屋。いずれも障がいのある人とその同行者が利用できる。

レファレンス

いろいろな問合せや調査について、調べ方を教えたり、必要なデータや資料を探したり、関連する機関を紹介するなど、司書が援助する業務。

YAサービス

YAとはヤングアダルトの略で、吹田市立図書館では12歳~18歳を対象としたサービスをいう。YA世代を対象とした特設コーナー、YAコーナーには、その年齢層の興味・関心にこたえる読みやすい本や役立つ本を別置している。

YAサポーター

図書館で活動する市内在学・在住の中学生から18歳までのボランティア。本の整理や掲示物の作成、絵本の読み聞かせや工作教室といった行事の補助などを行う。

来館型サービス

市民などが図書館に直接来館して利用するサービス。資料の閲覧・貸出・返却、レファレンス(窓口)、データベース利用、行事・イベント、複写サービス、図書館見学、公衆Wifiの利用、諸室の利用など。⇨非来館型サービス

【参考資料】

『吹田市立図書館の基本方針と目標』図書館語句解説

『図書館情報学用語辞典 第5版』(丸善出版)

『日本大百科全書』(小学館)

Japan Knowledge Lib

『情報・知識 imidas』(集英社)

Japan Knowledge Lib

吹田市立図書館基本構想アクションプラン総括

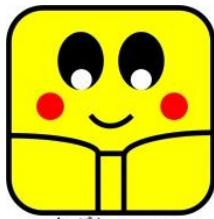
令和4年(2022年)7月

編集・発行 吹田市立図書館

〒564-0072 大阪府吹田市出口町18-9

電話：06-6387-0071 FAX：06-6339-7144

HP：<https://www.lib.suita.osaka.jp/>



すしぽん ©吹田市立図書館